

令和 7 年度使用中学校用教科用図書

調 査 資 料

国語・書写・社会（地理・歴史・公民・地図）

数学・理科・音楽（一般・器楽）・美術

技術・家庭・保健体育・外国語（英語）・道德

第14採択地区教科用図書採択協議会

教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
6 教 図	教育図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
50 大修館	株式会社大修館書店
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
81 山 川	株式会社山川出版社
104 教 研	数研出版株式会社
116 日 文	日本文教出版株式会社
224 学 研	株式会社 Gakken
225 自由社	株式会社自由社
227 育鵬社	株式会社育鵬社
229 学び舎	株式会社学び舎
232 あか図	あかつき教育図書株式会社
233 日 科	日本教科書株式会社
236 令 書	令和書籍株式会社

資料に記載している「QR コード」は、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

【国語科（国語） 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい国語	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○日本語の決まりや特徴を学ぶ「日本語探検」が設定され、キャラクターを使ったストーリー仕立てにより学習に取り組みやすくする工夫が見られる。 ○古典に親しませるために、作品を解説する折り込み資料を掲載している。また、初歩的な教材が配置されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「学習の流れ」によって学習の見通しが持てるよう工夫されている。生徒目線で掲載された吹き出しによる問いかけも工夫されている。 ○「てびき」のページでは、目標から振り返りまでの学習が視覚化され、課題解決的な言語活動の充実も図れる工夫が見られる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○教材ごとの「てびき」に「言葉の力」が掲載され、学習内容の関連性が図られている。巻末に一覧表を設け、「言葉の力」を系統的に学べるよう示されている。 ○「未来への扉」が設けられ、多様性や地球環境など未来を考える九つのテーマ設定が示されている。「言葉の力」を重視した教材配列と系統性が図られている。 ＜言語感覚を豊かにするための工夫＞ ○我が国の言語文化について扱う「日本語探検」「文法の窓」「漢字道場」や巻末の「資料編」により、多くの語に出会い、その使い方や味わいを捉えたりすることができるよう工夫されている。 ＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞ ○読み物教材には「読書案内」が掲載され、関連する書籍への関心を誘う工夫がされている。映像化された作品も紹介し、絵コンテやマンガも取り上げるなどの工夫が見られる。	
資 料	○各教材にある二次元コードから動画や思考のヒント、資料や練習問題など 4 1 5 のデジタルコンテンツを閲覧、利用することができるよう工夫されている。 ○巻末に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習が可能となる「資料編」と「言葉の力」の一覧が整備されている。	
表記・表現	○色以外の要素（マークや文字情報）を加え、色覚特性への配慮がなされている。 ○筆遣いや字形を書き文字に近づけた特別な明朝体フォントを採用し、未学習漢字だけでなく、小学校で学習しない漢字と教材の初出箇所にルビが振られている。	
総 括	○1 年では小学校での既習事項の復習となる内容や、3 年生を中心に社会生活に生かせる言語活動や評論文などの教材が掲載されている。全ての学習者に配慮した編集が見られる。	

【国語科（国語） 調査資料 1－2】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	現代の国語	1 5 三省堂
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各教材に「思考の方法」が設定されており、比較、分類、具体化、抽象化など思考そのものを身につける機会が工夫されている。 ○古典に親しませるために、写真や図版を用いた資料が掲載されている。現代語訳を充実させ古典への抵抗感を軽減した上で段階的な内容の工夫が見られる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「読み方を学ぼう」が設けられ文章の構造や捉え方を丁寧に説明している。また、巻末で一覧として整えられている。 ○「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的な思考を促している。また、「書くこと」と「話すこと」が関連しており、言語活動の充実が図られている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○学習の見通しがもてるよう教材ごとに「学びの道しるべ」が設けられ、何をどう学ぶのかの方向性を見だしやすい工夫がなされている。 ○「対話」を意識した課題設定がなされ、日常生活に生きる学習への工夫が見られる。各学年の巻末には、社会生活への広がり活用できる資料が一覧で掲載されている。 ＜言語感覚を豊かにするための工夫＞ ○我が国の言語文化について扱う「言葉発見」「文法の窓」「漢字のしくみ」や巻末の「資料編」により、多くの語に出会い、その使い方や味わいを捉えられるよう工夫されている。 ＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞ ○「私の読書体験」「私の本棚」「小さな図書館」などが配置されている。資料編には「読書の広場」が設けられ、各種文章が紹介されている。	
資 料	○各教材の二次元コードから、学習の参考となる資料や動画解説を閲覧したり、学習を支えたりするコンテンツが充実している。 ○巻末資料として全学年を通じて同じ物（小倉百人一首など）を掲載し、学習の系統性が理解しやすい工夫がある。	
表記・表現	○カラーユニバーサルデザインに基づく表記や表現がされ、誰にも見やすく学びやすい表記・表現である。 ○読みやすさ、学びやすさを追求して開発した、明朝体・ゴシック体・教科書体を使用している。	
総 括	○1年では小学校での既習事項の復習となる内容が扱われている。全体として、社会生活に生かせる言語活動や評論文などの教材が掲載されている。具体的な言語活動例が豊富に示されている。	

【国語科（国語） 調査資料 1－3】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	伝え合う言葉 中学国語	1 7 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「情報・メディアと表現」を設け、文字と文字以外の表現を合わせて読解することで、情報の扱い方や活用する力を身につける工夫がされている。 ○古典に親しませるために、巻末には本教材で扱った別場面を掲載している。昔話や川柳など古典の入門教材が採用されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「学習の流れ」の中でポイントを示すことによって、学習が深まるように工夫されている。また、言語活動の充実を図るため、思考ツールが掲載されている。 ○「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的な思考を促している。書く活動では、課題の内容や書き方の例が示され、学習者が取り組みやすいよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「目標」「学びナビ」「本文」「学習活動」「みちしるべ」「振り返り」の学習の見通しが明確に示されている。「学びナビ」「みちしるべ」で学習の関連性が図られている。 ○巻末の「学びナビ」一覧では、各教材で学習した思考のヒントがまとめられ、学習の補完・追求ができる工夫がされている。 ＜言語感覚を豊かにするための工夫＞ ○我が国の言語文化について扱う「言葉の小窓」「文法の小窓」「漢字の広場」や巻末の「言葉の自習室」により、多くの語に出会い、言葉の使い方を判断したり、言葉の味わいを捉えたりすることができるように工夫されている。 ＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞ ○单元ごとに「広がる本の世界」が配置されている。学びが生きる読書活動や実生活に即した読書活動につながる工夫がされている。	
資 料	○各教材の「まなびリンク」（＝二次元コード）から教材の補足資料や情報活用能力の育成を手助けするコンテンツを閲覧、利用できるよう工夫されている。 ○巻頭では SDG s と学習の関連付けを示し、巻末には学習内容をまとめた「解説編」と補充学習に役立つ「言葉の自習室」が掲載されている。	
表記・表現	○ユニバーサルデザインに基づき、色調のバランスだけでなく強調や字形へも配慮された表記である。 ○本文内の明朝体やゴシック体のフォントは独自開発され、漢字学習に配慮され工夫されている。	
総 括	○1 年生では小学校での既習事項の復習となる内容が扱われている。全体として、社会生活に生かせる言語活動や評論文などの教材が掲載されている。学習を段階的に積み重ね発展学習まで至る構成が見られる。	

【国語科（国語） 調査資料 1－4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	国語	3 8 光 村
内 容	<知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○言葉の特徴に関する教材や文法のまとめには多くの例文が示され、意味等を深く理解するとともに、自身の表現の選択肢が増えるよう工夫されている。 ○古典に親しませるために、作品の全体像を解説するコラムや絵巻・図表・年表が掲載されている。 <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「思考の地図-思考の旅に出かけよう」を設定し、思考の方法の具体例が示されている。主体的に思考するための導入が工夫されている。 ○聴解力を鍛える新系列を配列し、二次元コードから動画を視聴できるよう工夫されている。学びの本質に迫る聴き合う力を育成する工夫がされている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○教材ごとに「学びへの扉」を設け、学習の見通しをもたせている。巻末には『「学びのカギ」一覧」を設け、基本的な観点を示し、振り返りができるようになっている。 ○SDGs 等日常生活に生きるテーマを設け、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で言語活動が掲載されている。 <言語感覚を豊かにするための工夫> ○「言葉」「文法への扉」「漢字」や巻末の「語彙ブック」「資料編」により、多くの語に出会い、言葉の使い方を判断したり、言葉の味わいをとらえたりすることができるよう工夫されている。 <読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○「読むこと」の教材ごとに「広がる読書」が配置されている。読書単元が二つ設定され、関連書籍・テーマ別書籍の紹介、読み比べにつなげられる構成である。	
資 料	○巻末に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる資料や文章を読んだり豊かに表現したりするための「学びのカギ」一覧が掲載されている。 ○各教材の該当ページに示された二次元コードから関連する資料を閲覧したり、巻末の「国語の力試し」に挑戦したりできるよう工夫されている。	
表記・表現	○全体的に淡い色が使われており、視覚特性にも配慮した工夫が見られる。 ○UD フォントや手書きに近い教科書体フォントの使用により視認性高く工夫されている。	
総 括	○1 年生では小学校での既習事項の復習となる内容が扱われている。3 年生を中心に、社会生活に生かせる言語活動や評論文などの教材が掲載されている。各ジャンルの設置バランスがよい。	

【国語科（書写） 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい書写	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○基本単位では、文字を整えて書くための汎用的なポイントを「書写のかぎ」として位置づけ、学習の基礎・基本を負担なく確実に習得できるよう工夫されている。 ○書写テストを各学年で掲載し、書いた文字からは捉えづらい書写の知識面に関する理解度を図るための工夫が示されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「書いて味わおう」という国語教科書掲載作品の一節をなぞり書きするページを設け、また、対話的な話し合い活動や言語活動と関連する題材を取り上げている。 ○「生活に広げよう」では、効果的な文字の選択や場面・相手の設定等、単位ごとの学習内容を生かして表現活動に取り組むための題材が設定されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○学習者が見通しをもって学べるよう、単元構成が 3 段階の手順で整理され、学習過程を程統一し、主体的に学ぶためのポイントを「書写のかぎ」として示している。 ○「振り返ろう」という項目を設け、学習目標と連動した自己評価ができるように工夫されており、自らの学びを深めるための支援が施されている。 ＜毛筆と硬筆との関連＞ ○「生かそう」という硬筆教材を設定しており、毛筆の点画を書く際に学んだことを硬筆にも生かせるような関連を図っている。 ○各学年内に、適宜「硬筆のまとめ」のページを配置し、硬筆と毛筆を効果的に関連させるための工夫がされている。 ＜各教科や社会生活との関わり＞ ○各学年ともに、「生活に広げよう」という項目があり、ノート例やポスター、レポートなど、特別活動や生活に生かせる学習が紹介されている。	
資 料	○巻末の「書写活用ブック」で様々な書式や漢字表が取り上げられており、随所に写真図版と解説を交えた「文字といっしょに」というコラムが設けられている。 ○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。姿勢と筆記具の持ち方、書写テスト、運筆動画等が見られるようになっている。	
表記・表現	○教材文字を上、書き込み欄を下に配置し、右利きにも左利きにもしっかりと教材文字を見ながら書けるような工夫がされている。	
総 括	○学習の定着のために、大事なポイントをまとめた「書写のかぎ」が示され、学習の要所を確認しやすく工夫されている。書写の知識や技能を身に付けられるよう、行書の特徴的な動きをパターン化し、繰り返し意識づけるという特徴がある。	

【国語科（書写） 調査資料 1－2】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	現代の書写	1 5 三省堂
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各ページにわたり、行書の横に楷書の文字が並べて示され、両者を繰り返し比較することで書体の違いの理解が定着する工夫がされている。 ○具体的な字形例をもとに書き方のポイントが示され、「書き方を学ぼう」「書いて身につけよう」という構成で知識・技能の定着を図る工夫がされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○見開きのページに楷書と行書を文字で比較する工夫を施し、書体を比較しながら単元の課題や学習のポイントを見つけることができる紙面となっている。 ○各学年の最後に、「やってみよう」という項目を設け、場面に応じた効果的な文字の選択など、既習事項を生かして応用的な表現活動につがる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「書き方を学ぼう」という書き方のポイントと「書いて身につけよう」という既習事項を生かして書くページ構成で、学習者が見通しをもって学習しやすくなっている。 ○「振り返ろう」という項目を設け、学習者が学習の振り返りのポイントを押さえ、自分の言葉で振り返りができるように工夫されている。 ＜毛筆と硬筆との関連＞ ○点画の種類と筆使いを毛筆で学習した後に、「書いて身につけよう」という教材を施し、毛筆と硬筆の関連を図る工夫がされている。 ○資料編では、日常で使用する書式や古典教材の書式を紹介し、それらを硬筆で書く学習内容が掲載されている。 ＜各教科や社会生活との関わり＞ ○各学年の最後にある「やってみよう」という項目や、資料編の「日常の書式」という項目で、日常生活や他教科と関連した学習ができる工夫がされている。	
資 料	○巻末の資料編では、「日常の書式」と「書写の広場」という紙面で、書写の日常生活との関連や古典との関連が学べるよう工夫されている。 ○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。姿勢と運筆、コラム関連動画等が見られるようになっている。	
表記・表現	○見開きの右ページに学習目標と書き方のポイントが示され、左ページには教材文字が全ページに示され、各ページに楷書と行書の文字が並べて示されている。	
総 括	○楷書と行書の比較が多くページに示され、両者の特徴や違いを繰り返し学べる工夫がされている。「書いて身につけよう」という項目だが、毛筆と硬筆の関連を図りながら、学習内容を多様な場面で活用できる構成となっている。	

【国語科（書写） 調査資料 1－3】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学書写	1 7 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○基礎・基本の指導内容を紙面サイズの工夫と書き方のポイント解説の見開きの紙面構成としており、指導者や学習者の理解を助けている。 ○毛筆教材の図版は、穂先の通り道を朱墨で示すことで、筆遣いの基本が理解しやすい工夫がされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「学習を生かして書く」という項目では、古典作品や話し合い活動と書写の関連性などの事例や言語活動があり、学習内容を活用する教材が示されている。 ○「学校生活に生かして書く」など、各教科の学びと書写の関連や、実社会で活用できる書写の事例により、書写の学習を活用するための工夫が示されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○内容ごとの学習プロセスが明確に示されており、学習者が見通しをもって学べるような紙面構成が工夫されている。 ○「振り返ろう」という項目で、学習目標と連動した自己評価項目と照らし合わせながら、学習者が自らの学びを確認できるよう工夫されている。 ＜毛筆と硬筆との関連＞ ○各手本の初めに「試し書き」として硬筆で書き、「考えよう」で毛筆の課題を発見、確認し、「生かそう」で、硬筆に応用するという構成となっている。 ○基本点画を学習する単元の終末に、毛筆の学習の既習事項を生かして硬筆で書く学習が位置付けられている。 ＜各教科や社会生活との関わり＞ ○3年生のまとめの単元やコラムで、各教科の学びと書写の関連や、実社会で活用できる書写の事例が示され、書写の学習を活用するための工夫がされている。	
資 料	○巻末に日常の様々な書式を紹介した「書写の教室」や「書き初め手本」等が取り上げられており、教科書の随所にコラムが設けられ、写真図版と解説が施されている。 ○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。用具の準備や運筆等、学習に役立つ関連動画等が見られるようになっている。	
表記・表現	○手本に中心線を施し、学習者の視覚に訴えるワイドな手本文字の紙面や、学習の手順が分かりやすい紙面構成の工夫がされている。	
総 括	○各手本では、基礎・基本の定着や「考えよう」という学習者に思考・判断させる教材など、基礎・基本の定着から活用力の育成のために有効な教材が盛り込まれ、コラムによる学習を広げるための教材も豊富に示されている。	

【国語科（書写） 調査資料 1－4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学書写	3 8 光 村
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「学びのカギ」という各学習のポイントとなる項目を設け、他の文字を書くときにも普遍的に活用することができる基礎・基本を明確に示している。 ○「中学校書写スタートブック」で基本姿勢や用具、書写の学習の進め方など、書写の基礎・基本が分かりやすく示されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○古典文学や短歌、俳句に加え、学校生活や他教科における書写の学習を活用して取り組むための教材が豊富に示されている。 ○「考えよう」という項目を示し、学習者が文字を観察したり比較したりして思考や判断をしながら学習のポイントを意識できるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という構成で統一され、学習の要点は「学びのカギ」として示され、学習者が見通しをもって学習できる工夫がされている。 ○「振り返ろう」という項目を設け、学習目標と連動した自己評価ができるように工夫されており、自らの学びを深めるための支援がなされている。 ＜毛筆と硬筆との関連＞ ○各手本に、毛筆の学習を生かして硬筆で書く「生かそう」という項目があり、毛筆と硬筆の学習のつながりが意識された教材となっている。 ○「書写ブック」という冊子により、毛筆の基本点画を学んだ後、硬筆課題に取り組めるための教材が設けられ、毛筆と硬筆の関連を図る工夫がされている。 ＜各教科や社会生活との関わり＞ ○「日常生活に役立つ書式」や「国語・学校生活」のページで、手紙や葉書の書き方、職業ガイドや新聞等の活用例を示し、教科や日常生活との関連の工夫がされている。	
資 料	○巻末に「日常に役立つ書式」や「常用漢字表」等が取り上げられており、教科書の随所にコラムが設けられ、写真図版と解説が施されている。 ○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。用具の準備や運筆等、学習に役立つ関連動画等が見られるようになっている。	
表記・表現	○見開きで学習目標と学習の流れが示され、教材文字は次ページに半紙原寸大で掲載されており、学習の中心事項が分かりやすく示されている。	
総 括	○教材ごとの学習の一連の流れが整っており、学習の要点や見通しがもちやすい教科用図書となっている。「書き初めマスターブック」や「書写ブック」などの教材により、学習の定着や活用についても工夫がされている。	

【社会科（地理的分野） 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい社会 地理	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○単元の最後には学んだことを振り返る「確かめよう」等のコーナーが設けられていることで基本的な知識の定着が図れるように工夫されている。 ○地理の学習に必要な技能を段階的に定着させることができるように「スキル・アップ」のコーナーが設定されており資料の読み取り方が示されるなど工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○課題の解決をするために自らの思考を整理する様々なツールが用意されており、QRコードを組み合わせることで、より多様な活動が展開できるように工夫されている。 ○単元のまとめでは「見方・考え方」を働かせて、探究課題に答えるためのコーナーが設けられており、自分の考えをまとめ、整理できるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○現代的な諸課題の解決に主体的に取り組む態度を育成するために地理・歴史・公民の分野の枠をこえて貫くテーマについて考えるコーナーがあり、工夫されている。 ○持続可能な社会の実現に向けて、考えるきっかけとなるコラム「未来にアクセス」が新設され、これからの社会をともに考えられるように工夫されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○導入では、単元を貫く「探究課題」が設定されている。まとめでは単元を振り返る「探究のステップ」が設けられているため、段階的に探究課題を解決できるよう工夫されている。 ○学習の様々な場面で対話的な活動を促す「みんなでチャレンジ」によってより深い学びにつながるように工夫されている。	
資 料	○多彩なQRコードコンテンツで学びがサポートされており、QRコードの位置も定位置に掲載され、活用しやすいよう工夫されている。 ○「もっと知りたい」や「未来にアクセス」や中学生が地域を語るコラムが掲載されていたりすることで生徒の関心が高まるよう工夫されている。	
表記・表現	○カラーユニバーサルデザインに対応しており、グラフや地図は、色覚特性のある生徒でも見分けられる色の組み合わせを採用している。 ○教科書の全ての文字に、字形を判別しやすく、読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を採用している。	
総 括	○「導入の活動」で章や節の学習を通して追究する「探究課題」を設定し、「学習課題」を解決していくことで「まとめの活動」でスムーズに振り返り、まとめをする流れが構造化されている。 ○まとめのページにおいて思考を整理する様々なツールが用意されており、紙の教科書とQRコンテンツを組み合わせることで、より多様な活動が展開できるようになっている。	

【社会科（地理的分野） 調査資料 1－2】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学社会 地理 地域に学ぶ	1 7 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各単元のまとめのページには「学習を振り返って整理しよう」のコーナーが設けられており、知識・技能の定着ができるよう工夫されている。 ○「地理の技」のコーナーでは生徒に身に付けさせたい地図やグラフの扱いなどの技を磨くコーナーが設けられており、日常生活でも役立つよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「THINK!」のコーナーでは資料の読み書きについて、問いを手掛かりに取り組むことができ、資料を活用して考え、まとめる力の養成に役立つよう工夫されている。 ○歴史・公民分野との関連箇所を示すことで、各分野の異なる「見方・考え方」に触れることができ、より深く考えることができるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○主権者教育の一環としてSDGsの17の開発目標と関連する地球的課題を扱っており、持続可能な視点を意識しながら学習が深まるよう工夫されている。 ○ウクライナ問題等、今日的な話題を多面的・多角的な視点からとらえ、広い視野に立って読み解き、考察する力が身につくよう工夫されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○導入からまとめの特設ページ「クロスロード」に繋がるような單元ごとの構成になっており、「問い」を軸にして課題解決的に追究できるよう工夫されている。 ○「身近な地域の学習」では生徒自らが地域調査に臨めるよう工夫されているだけでなく、伝統文化を大事にしている事例や、地域で進む多文化共生の姿を取り上げて学習を深めるよう工夫されている。	
資 料	○大きく広げることのできる資料性の高いページが採用されており、世界・日本両方の学習に役立てるよう工夫されている。 ○紙面に印刷されたQRコードから各種のコンテンツにアクセスして学習に活用することができるよう工夫されている。	
表記・表現	○教育のユニバーサルデザインの実現に向け、レイアウトや配色、書体など表現の工夫がされている。 ○本時のページでは、写真や図版の資料部分の背景に色をつけ、本文と資料の区別が明確になるよう工夫されている。	
総 括	○導入で生徒の興味・関心を引き出し、1時間の授業ごとに学習課題を設けることで生徒の主体的な学習を促し、章・節のまとめで学習の定着の確認ができるよう工夫されている。 ○「特設・クロスロード」の項目ではより多面的・多角的に考察できる話題を取り上げるなど社会への関心を高め、自ら行動する力を養えるよう工夫されている。	

【社会科（地理的分野） 調査資料 1－3】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	4 6 帝 国
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「世界の諸地域」の学習ではどの州の学習でも「写真で眺める」→自然環境という順で展開されており、地域的特色を理解するための土台を作れるよう工夫されている。 ○単元の最後のページには「学習を振り返ろう」が設置されており、節の振り返りとして学んだ、基礎・基本的な知識の確認ができるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「説明しよう」のコーナーが設けられており、学習課題を振り返り、習得した知識を活用し、言語活動につなげることで思考・判断・表現力の育成を促す工夫がある。 ○「学習を振り返ろう」では、思考ツールによる整理と「章・節に問い」に対する自らの考えのまとめを行うことで「深い学び」を実現できるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「主体的・対話的で深い学び」を実践する特設「アクティブ地理」が新設され、対話を通して課題に粘り強く向き合う姿勢や、他者との意見交換を通して合意形成を目指す態度を身に付けられるよう工夫されている。 ○地域的・地球的課題の解決に取り組む視点を養う「未来に向けて」が設置されており、よりよい未来を構想するためのヒントを得ることができるよう工夫されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○対話を通して学びを深める「アクティブ地理」の学習では、地球に見られる課題について「生きて働く知識・技能」を定着させることができ、歴史・公民との関連テーマが設定されていることで、多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。 ○各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつかんだ学習内容の積み重ねが、「章・節の問い」の追究につながるようになっており、主体的・対話的で深い学びへつながるよう工夫されている。	
資 料	○「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の導入では地域の姿を実感できる大きく鮮やかな写真を掲載している。 ○「日本の諸地域」では手書き風の親しみやすいイラスト地図が掲載されている。	
表記・表現	○カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすく分かりやすい色調になっている。 ○誤読を防ぐ読みやすいUDフォントが採用されていたり、レイアウトも統一されていたりするため、全ての人にとって読みやすいよう工夫されている。	
総 括	○「主体的・対話的で深い学び」を実現するために導入からまとめまでの流れが一貫しており、見通しを持って学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○地域的・地球的課題の解決のためのページが設置されており、よりよい未来を切り開く力を鍛えられるよう工夫されている。	

【社会科（地理的分野） 調査資料 1－4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学社会 地理的分野	1 1 6 目 文
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「本文(追究)ページ」では「確認」「表現」コーナーで本文の内容を確認できるよう工夫されており、「まとめ・振り返りページ」では知識定着のための問いによって節で学んだ知識の確認ができるよう工夫されている。 ○「スキルUP」では地理の学習を進めるにあたって必要な技能を 6 種類に整理することで分かりやすく地理的技能を系統的に身に付けられるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○資料活用コーナーでは資料活用コーナーを設けるとともに、生徒が自分の言葉で表現することで思考力、判断力、表現力等の向上を図れるよう工夫されている。 ○まとめではまとめ方の例が分かりやすく提示されており、ステップに従って自分の考えをまとめることができるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○導入ページでは学習の見通しとしてポートフォリオに書き込み、学習後に自分の考えの変容を振り返ることで主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○現代的な諸課題を扱ったコーナーや、「地理＋α」のコーナーでは多様な課題や文化などについて扱っており、公民的資質の涵養につながるよう工夫されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○本文ページには学習課題が提示され、その解決に向けて手掛かりになる主な「見方・考え方」の例があることで、課題の追究を助けられるよう工夫されている。 ○思考ツールの提案があり、端末上で操作できるコンテンツをW e bサイトで公開するなど工夫されている。	
資 料	○「教科書QRコンテンツ」が充実しており、生徒の学習をよりよくできるよう工夫されている。 ○大観ページでは、主題や考察の仕方に深く関わる写真が大きく掲載されており、州や地方の概要が確実につかめるように構成が工夫されている。	
表記・表現	○教科書本文にはUDフォントである「UD 黎ミン」「ヒラギノUD 角ゴF」を使用し、カラーユニバーサルデザインにも対応しており、多様な生徒に扱いやすい仕様になっている。 ○各単元で基本色となる「単元カラー」を設定し、デザインを統一し、ページの右側にインデックスを設けることで単元が参照しやすくなるよう工夫されている。	
総 括	○大観ページ、導入ページ、本文(追究)ページ、まとめ・振り返りページの流れになっており、より詳しく地理的事象について考えることができるように工夫されている。 ○小学校での既習事項や他分野の内容が多数掲載されており、相互に連携・関連させながら学習できるよう工夫されている。	

【社会科（歴史的分野） 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい社会 歴史	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開きを 1 単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック＆トライ」で構成されている。 ○歴史の学習に欠かせない基礎的・基本的な技能を身に付ける「スキルアップ」が設けられおり、そこで身に付けた技能を活用して活動するコーナーも設けられている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○見開きのまとめ「チェック＆トライ」では、学習内容の説明や要約等、学習の最後に取り組んで学んだことを振り返れるよう工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、様々な思考を整理するツールを活用した学習活動が設けられている。 ○「見方・考え方」を働かせる視点のマークを付したりすることで、歴史的な見方・考え方を働かせてより深く思考・判断できるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○1 単位時間の学習で追究する学習課題を示し、生徒が見通しを持って主体的に学習を進められるように工夫したり、キャラクターの会話で、生徒が探究課題を主体的に解決するヒントを示したりしている。 ○本文に関する内容をさらに深めたり、違う視点でとらえたりするコラム「もっと知りたい」が設けられている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各時代の導入に小学校で習ったことばの確認と、「みんなでチャレンジ」で協働的な活動が設けられ、予想を立ててから単元全体を貫く「探究課題」を考えていけるよう、工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、「探究のステップ」が設けられ、見開きごとの活動が段階的に「探究課題」の解決へとつながるように構成されている。	
資 料	○QRコードから、社会科 3 分野や他教科でも扱う学習内容にアクセスできるようになっている。 ○本文を補完する学習効果の高い資料を大きく掲載し、「図番号」を付すことで効果的な学習ができるようになっている。	
表記・表現	○色覚特性のある生徒でも見分けられるカラーユニバーサルデザインを採用している。 ○本文は、字形を判別しやすく、読み間違えにくいUDフォントを採用している。 ○QRコードの位置がどのページも同じ位置に設定されている。	
総 括	○教科書の紙面は、A B 版が採用されている。 ○教科書全体を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「情報・技術」「防災・安全」の 5 つのテーマがあり、現代的な諸課題を意識しながら学習を進めることができるよう配慮されている。	

書名 項目	中学校社会 歴史 未来をひらく	1 7 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開きを 1 単位時間とし、本文、資料、学習活動で構成されている。また、本時の学習をまとめる「確認」と「表現」が設けられている。 ○基本的な技能を身に付けるコーナー「歴史の技」を設定している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○見開きのまとめ「表現」では、学習内容を自分の言葉で説明したり、対話したりすることで事象を解釈して、表現できるように工夫されている。 ○「LOOK!」や「THINK!」で資料を読み取って考えを深め、内容について、さらに思考力や表現力を高めるために「TRY」のコーナーが設けられている。 ○章末「学習のまとめと表現」では、時代の特色を言葉で説明する活動が設けられ、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○導入の「学習のはじめに」では、資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読みながら、章の学習が見通しをもって進められるように工夫されている。 ○「歴史の窓」には、学習内容について興味関心を広げていけるようなコラムが掲載されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各時代の導入「学習のはじめに」では、その時代を象徴するような資料とそれに関わる問いが示され、見通しを持って学習が進められるよう、工夫されている。 ○本文とは視点を変えて捉え直す「特設ページ」が設けられ、現代社会の諸課題と照らし合わせ、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。 ○巻末「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、これからの社会を築いていくため、自分たちには何ができるかを考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。	
資 料	○文字や図版など資料の印刷は鮮明で、色彩もビジュアル性が高い。特に、写真の発色がきれいで、統計資料も読み取りやすい。	
表記・表現	○図やグラフなど、教科書中の表現にはより多くの人が見やすいカラーユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○写真や図版の資料部分の背景に色をつけ、本文と資料の区別が明確になるよう工夫されている。	
総 括	○「学習課題」を受けて、「THINK!」などのコーナーや、1 時間の学習の最後に位置付く「確認／表現」のコーナーの問いに取り組むことで、生徒が自ら学び、考える学習が展開できるよう配慮されている。 ○「確認／表現」や章末の「学習のまとめと表現」にグループによる学習活動がバランスよく設置され、協働学習の中で新たな知識の習得や学習意欲を向上させるよう工夫されている。	

書名 項目	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	4 6 帝 国
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開きを 1 単位時間とし、導入、学習課題、本文で構成されている。また、学習内容を振り返るための「確認しよう」「説明しよう」も設定されている。 ○歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できる「技能をみがく」コーナーが設けられている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○見開きのまとめ「説明しよう」では、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して自分の言葉でまとめ、表現できるように工夫されている。 ○「世界とのつながりを考えよう」のページでは、都市のイラストや世界地図から当時の世界の動きや日本とのつながりを考えられるように工夫されている。 ○「アクティブ歴史」や「章の学習を振り返ろう」では、見方・考え方を働かせて内容を整理し、説明することで学びを深められるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「タイムトラベル」では、単元の始めで各時代の社会の様子を眺め、時代の特色をつかめるような構成になっている。 ○中学生のキャラクターが発問や気づき、学習の手がかりを提示することで、主体的に学習に取り組めるようになっている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各章ごとに「章の問い」「予想」「節の問い」「見開きの問い」が設定され、「章の学習を振り返ろう」では、節から章へと段階的に振り返りを行い、課題追究ができるよう構成されている。 ○「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」「アクティブ歴史」など、見方・考え方を働かせて課題を解決していくような活動が多く設定されている。	
資 料	○「人物コラム」のコーナーが 4 9 名分設けられ、歴史に親しみが持てるよう工夫されている。 ○「解説」のコーナーが側注欄に 5 1 項目設けられ、理解しづらい用語には図解や写真が添えられて視覚的に理解が深まるように工夫されている。	
表記・表現	○文字をはっきり読み取ることができる UD フォントが使用され、誤読を防ぐように配慮されている。 ○グラフ・地図などの資料には、色覚特性を持つ生徒も識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインの配慮がなされている。	
総 括	○「アクティブ歴史」では、課題解決型学習を通して対話的な学習を多く設定している。 ○「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」など、見方・考え方を働かせて課題を解決していくような活動が多く設定されており、学習を振り返ろうで「章の問い」を振り返ることで「深い学び」につなげられるよう工夫されている。	

【社会科（歴史的分野） 調査資料 1－4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学歴史 日本と世界 改訂版	8 1 山 川
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開き 1 単位時間とし、導入の発問、本文、「ステップアップ」による振り返りで構成され、世界史も含めた歴史全体の流れをつかめるようにしている。 ○「歴史へのアプローチ」では、設定されたテーマについて問いをもとに歴史的に深く掘り下げて解説されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「ステップアップ」では、授業で学んだ上でより主体的に深めたい課題を提示し、「歴史を考えよう」では、資料から課題を話し合い、考察しながら学べるよう工夫されている。 ○章末「まとめ」では、時代全体を通して考えるための問いがあり、歴史的な見方・考え方を働かせて考えを深められるように工夫されている。 ○写真やグラフ、コラムなどに関して考えてほしい課題が付されており、資料を見る観点が分かりやすくなっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「地域からのアプローチ」では、地域の歴史を様々な角度から歴史的に考えられるように工夫されている。 ○意味の分かりにくい用語について同じページで用語解説がしてあり、理解しやすいようになっている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○学習の見通しを持てるように、各章の冒頭に視覚的に歴史の流れをつかめるような資料を用いたり、見開きの冒頭に学習課題が明示されたりしている。 ○「歴史へのアプローチ」や「地域からのアプローチ」では、資料の細部まで取り上げたり、調査の結果を踏まえたりすることで、多面的・多角的に課題が追究できるように工夫されている。	
資 料	○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○QRコードを付し、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見るなど、課題を追究した学習ができるように工夫されている。	
表記・表現	○ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と課題追究のための「ステップアップ」の発問が示されている。	
総 括	○「近代化」など高等教育での学習でも求められる概念を盛り込み、「用語解説」で解説して、深い理解をうながせるように工夫している。	

【社会科（歴史的分野） 調査資料 1－5】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学社会 歴史的分野	1 1 6 目 文
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開きを 1 単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「確認」「表現」で構成され、「確認」「表現」では学習活動や自分の考えを説明させる問いが明示されている。 ○「スキルUP」では、情報の収集、読み取り、まとめに関する技能を分かりやすく解説している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○見開きのまとめ「確認」「表現」では、学習内容を理解しているか確認するために、自分の言葉で説明するような問いが設けられている。 ○章末の「〇〇ってどんな時代？」では、時代の特色を考えて説明したり、話し合ったりする学習活動を設けてあり、「チャレンジ歴史」では、資料をもとに歴史について自分で考えたり、対話したりして歴史を学ぶ面白さを体験できるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○章末のまとめとふり返り「〇〇の学習をふり返ろう」では、考えが変わったり深まったり、考え続けていきたいことをまとめ、主体的に取り組める工夫がされている。 ○地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や生活の向上や文化の発展に取り組んだ先人を紹介するコーナーや特設ページが設けられている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各時代の導入では、年表や世界地図を使った時間軸と空間軸から時代を大きく捉え、編や節の問いを明示して、学習の見通しを持てるように工夫されている。 ○歴史の学習の最後『歴史との対話』を未来に活かす』では、課題の解決に向けて歴史をふまえて未来を考える学習活動が設けられている。 ○「人物コラム」、「各時代の女性」、「先人に学ぶ」、「地域に学ぶ」、「歴史を掘り下げる」では、先人たちの取り組みを学び、解決の手立てについて生徒が歴史をふまえて考えることができるように工夫されている。	
資 料	○教科書内で関連する事項どうしを結び付ける参照ページコーナーで、諸資料から、多面的・多角的な見方をするすることで、学習内容の定着を図れるようにしている。	
表記・表現	○教科書全体を通して視認性の高いユニバーサルデザインフォントを使用し、送り仮名は判読しやすいゴシック体を使用している。	
総 括	○各編章は導入ページ「学習のはじめに」で単元を貫く問いを立てたり、学習を見通ししたりすることができるようにしている。本文ページでの学習を終えた後のまとめとふり返りページでは、単元を貫く問いに答える活動ができる工夫がある。この構成を各内容のまとまりで一貫させることで、生徒が学習を効果的に進めることができるようにしている。	

【社会科（歴史的分野） 調査資料 1－6】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい歴史教科書	2 2 5 自由社
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○本文に関連のある年表や文字資料（「知っ得ポイント」「歴史の言葉」など）が分かりやすく提示されていて、様々な視点の情報を得られるようになっている。 ○各章末のまとめには、復習問題のページがあり、重要語句や位置関係を確認し、知識を定着させることができるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○本文の内容を深め、歴史の見方のヒントを与える読み物が充実している。 ○単元を学習した後に挑戦したいワンポイントの課題が毎単元設定されており、自分の言葉で表現できるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各章の導入では、資料をもとに謎解きと予告が設けてあり、生徒の関心を高める工夫がされている。 ○「もっと知りたいコラム」や「人物クローズアップコラム」では、現在にもつながる社会的事象や人物について、多面的・多角的に捉えて紹介されている。 ○単元ごとにキャラクターが発問や気づきを提示する事で、主体的に学習に取り組めるようにしている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各章末の時代の特徴を考えるページでは、整理したり比較したり辞典や一言作文を作成する活動を通して、章を大まかに捉えることができるようになっている。 ○章末の「歴史を学んで」のページでは、日本の歴史の特色について課題が 6 つ設定されており、自分の考えをまとめたり、意見を出し合う活動が取り入れられたりして、深い学びが得られるように工夫されている。	
資 料	○写真資料が多く、大きく掲載されているため、興味・関心をもって学習に取り組みやすくなっている。生徒のキャラクターが分かりやすい言葉で実生活と結びつけるヒントを語っていることで意欲が高まるように工夫されている。	
表記・表現	○行間が広くて分かりやすく、グラフなどの資料が大きくて見やすくなっている。用語解説が巻末ではなく、ページ内に記載されているため学習しやすい構成になっている。	
総 括	○見開き 2 ページを 1 時間として、興味を引く「導入資料」、学習の見通しを立てる「学習課題」、分かりやすい「本文」、学習のポイントを確認する「チャレンジ」の流れで構造化され、知識・技能が確実に定着できるような工夫がされている。	

【社会科（歴史的分野） 調査資料１－７】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい日本の歴史	227 育鵬社
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開きを１単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、コラム、学習のまとめ（確認・探究）で構成され、主体的、対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。 ○「地域の歴史を調べてみよう」では、身近な地域の歴史の情報を収集し、レポートにまとめ、発表するという方法が示されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○本文や資料と関連する活動について、見方・考え方、資料活用、TRYのコーナーを設定し、情報を読み取ったりグループで話し合ったりできるように工夫されている。 ○章末「学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分の言葉や図で表現する活動が設けられている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「歴史ブームイン」では、本文で学習した内容について、より深めるための解説をしたり、別の視点からの見方を示したりする資料や情報を紹介している。 ○章の初めに「鳥の目」から歴史の流れをとらえ、「虫の目」から時代の特色をつかめるようなページ構成となっており、見通しを持って学習できるよう工夫されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各章冒頭の「〇〇の世界へようこそ！」では、課題と主体的に向き合うための設問が設けられ、歴史に関わる事象についての課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養えるようになっている。 ○巻末「歴史学習のまとめ」では、学習した内容を活用して、日本の歴史を大観し、表現する活動が設けられている。	
資 料	○図版、イラスト、写真等の資料類には正確を期し、本文の記述と関連づけて的確に揭示している。特に、口絵は、生徒が視覚的にも大いに興味をもって取り組めるよう工夫されている。また、巻末の「さくいん」には、人物と事項に分かれていて調べやすくする工夫がされている。	
表記・表現	○図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の使用や表示の工夫がある。ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮している。	
総 括	○歴史としての基礎的教養を培うために厳選された教材・資料を通して、それぞれの時代の変化や現代の課題を多面的・多角的に考察することができるよう工夫している。 ○教科書全体を通して、問題解決型の学習を実現する構成となっている。	

【社会科（歴史的分野） 調査資料 1－8】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名	ともに学ぶ人間の歴史		2 2 9 学び舎
項目			
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○章の扉のページで部の学習課題があり、章の後、部の終わりに章をふりかえる、部の学習のまとめが設けられている。 ○「歴史を体験する」でインターネットや博物館などを利用した調べ学習、体験者からの聞き取り、討論の方法など学習の方法が紹介されている。 ○「フォーカス」では、歴史の舞台に焦点をあてて、詳しい知識が得られるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「章の振り返り」では、歴史的事象を様々に関連付けさせたり、説明させたり、選択した理由を意見交換させたりすることで学習内容を多面的・多角的に考察できるようにしている。 ○「部の学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、各時代の特色を振り返り、グループやクラスで話し合う活動を取り入れることで、学びを深められるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○章の扉のページに北極を中心とした地図を置き、テーマに沿って世界各地の様子を想像できるように工夫されている。 ○関心を持って内容に入れるよう、単元名や資料が工夫されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各時代の導入として、扉ページで各時代の「学習課題」が示されており、学習を進めながら時代の特色を考えていく構成になっている。 ○現代史を充実させ、歴史的事象を今日の課題と結び付けることで、よりよい社会の実現に向けて考えられるように工夫されている。		
資 料	○年表に「日本の社会・政治・経済の動き」などの欄を設け、大きな流れや、出来事に関連をつかめるように工夫されている。 ○鮮明な写真を豊富に掲載している。		
表記・表現	○カラーユニバーサルデザインに配慮し、色、線、マークなどを見やすくしている。 ○文章表現や漢字の使用・ルビふりなど、想定される学年に即して編集するなど工夫されている。		
総 括	○「章や部のまとめ」では、年表や地図の活用や時代の特色にあった表現活動を行うことで多面的・多角的に話し合う機会を設け、意見を交換する中で「主体的・対話的で深い学び」へと導く工夫がある。 ○歴史を今日の課題と結び付け、よりよい社会の実現に向けて考えることができるよう工夫されている。		

【社会科（歴史的分野） 調査資料 1－9】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	国史教科書 第 7 版	2 3 6 令 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各章の初めに年表で大まかな流れと共に政治・外交・文化・産業の考える視点が明記されており、学ぶ視点がとらえやすくなっている。 ○単元末の「考えよう」では、まとめたり、調べたり、意味を考えたり、資料から読み取ったりする活動が設定され、技能の習得ができるような取り組みになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○他社では見られない資料が広範囲にわたって提示してあったり、文献資料や読む資料も多く載せてあったりして、学びを深められるような構成になっている。 ○まとめ学習のページでは、自分の言葉でまとめた上で、グループの活動ができるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○現在の様子がわかる資料や現在との関わりがわかるコラムが多く、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○章の初めを漫画のイラストにして生徒がイメージを持ちやすくしたり、巻末には時代ごとの資料や地図がカラーで大きくまとめたりしている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○まとめの学習のページでは、章の初めの 4 つの観点（政治・外交・文化・産業）の問いが設定してあり、明確な視点を持って課題を追究・解決していけるような構成になっている。 ○現代のページが多く扱われており、最後は生徒たちへのメッセージと「考えよう」「ディスカッションしよう」という流れで、歴史について自分なりの考えを持てるような活動内容になっている。	
資 料	○章の初めに簡略な年表があり、主な歴史の出来事がつかみやすくなっている。 ○本文のページは全て白黒で、巻末に各時代を象徴する美術作品の資料が大きく添付されており、細部まで特徴をとらえることができる。	
表記・表現	○時代、単元名、重要語句が太字で表記されている。 ○縦書きが採用されており、生徒にとって読みやすい構成となっている。 ○関連する注釈や文献資料が同じページに記載されている。	
総 括	○教科書の紙面は A 5 版が採用されている。 ○紙面は単色で、文献資料も多く提示され、他社と比べて太字も多く、日本の建国から現代まで深い知識を得られるよう工夫されている。	

【社会科（公民的分野） 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい社会 公民	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各章の導入では、小学校で学習した用語が掲載され、小学校の教科書に掲載されている資料にも「小学校マーク」が記されている。 ○地理・歴史の教科書に掲載されている資料に「地理」「歴史」のマークが記されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○小集団の協働的な活動コーナーとして「みんなでチャレンジ」を設け、深い学びにつなげるために「個人活動」と「グループ活動」を明示している。 ○14種類の背景から自由に選べて、付箋のように自在に入力できる「思考ツール」をデジタル版で用意していて、教科書に示したツール以外でも思考を整理でき、多様な活動に生かせる工夫がある。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○授業で学習した学びをさらに深めるために、「未来にアクセス」というコラムが設定されている。 ○3年後、18歳になり成年として主体的に社会参画するための準備として「18歳へのステップ」を設けてあり、生徒の興味・関心を高める身近で具体的な場面から、憲法・政治・経済をとらえ、主権者意識・消費者意識の醸成を促す工夫がある。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○「現代社会の見方・考え方」を働かせる視点の例は虫眼鏡アイコンで示してあり、資料の読み取りや協働的な活動をしやすくする工夫がある。	
資 料	○QRコードから、社会科3分野や他教科でも扱う学習内容にアクセスできるようになっている。 ○内容を精選し、令和3年度の教科書よりも16ページ削減し、かつ独自に開発した丈夫な軽量用紙を使用することで、重量と情報量の両面で生徒への負担を軽減している。	
表記・表現	○本文は、字形を判別しやすく、読み間違いにくいUDフォントを採用している。 ○色覚特性のある生徒でも見分けられるカラーユニバーサルデザインを採用している。 ○QRコードの位置がどのページにも同じ位置に設定してある。	
総 括	○単元のまとまりを意識して深い学びにつなげることができるよう、単元を貫く探究課題を設定し、1時間ごとの学習課題と探究活動をつなぐ「探究のステップ」を設けている。	

【社会科（公民的分野） 調査資料 1－2】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学社会 公民 とともに生きる	1 7 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○本時ページの最後に、学習したことを整理しながらまとめる活動として「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。また、本文内に適宜設けられた「公民の技」のコーナーでは、個人やグループでの活動を通じて、公民の学習で身に付けたい技能や表現力を養えるよう配慮されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○時事的なテーマや地域の事例から資料を読み深め、自らの考察力が高められるよう配慮されている。また、身近な社会的事象をテーマに、議論や論述などの言語活動に取り組む中で表現力を高めるとともに、多様な考えを交流し合うことにより、自らの思考や判断を深め、社会の一員としての自覚を高められるように構成されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○授業の初めに位置付けた「学習課題」を受けて、資料の読み解きのために随時設けられている「THINK！」を経て、1時間の学習の最後には「確認／表現」のコーナーの「問い」に取り組み、生徒が自ら学び、自ら考える学習が展開できるように配慮されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○図や語句を用いて整理する活動、「思考ツール」などを用いて考えを表現する活動、章全体を貫く「問い」に応答する活動を通して各章の学習をまとめながら、「現代社会の見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動が端的に行えるよう工夫されている。	
資 料	○教科書の紙面に印刷された二次元コードから、生徒自身が学習に活用できる動画、ワークシート、クイズ式教材、安全で公正な外部リンクサイトなど、多様なデジタル・コンテンツにアクセスできるようにしている。豊富な資料を、先生が適宜利用できるコンテンツサイトも設置している。	
表記・表現	○文字や図版など資料の印刷は鮮明で、色彩もビジュアル性が高い。特に、写真の発色がきれいで、統計資料も読み取りやすい工夫がある。	
総 括	○学びを助ける三本柱として「LOOK！」＝追究、「THINK！」＝資料の活用、「TRY！」＝社会参画のための活動といった分かりやすいアイコンで表示し、諸資料を効果的に調べ、まとめる技能を身につけられる工夫がされている。	

【社会科（公民的分野） 調査資料 1－3】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	4 6 帝 国
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開き 1 時間の紙面が、興味・関心を引く「導入」→学習を見通せる「学習課題」→丁寧でわかりやすい「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化され、基礎的・基本的な知識および技能が確実に習得できるようになっている。また「技能をみがく」コーナーが 6 か所設けられ、学習する上で必要な基礎的な技能が習得できるよう配慮されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○本文のページの見開き右下には、「確認しよう」と「説明しよう」が設置されている。「確認しよう」には本時の学習での習得事項を確認する作業課題が、「説明しよう」には本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられている。また、現代の社会で議論されているさまざまなテーマの賛否を示す「Y e s N o」のコーナーが 4 か所設けられ、生徒が自分の考えを整理できるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○部や章の導入として、学習内容を見通すことができるイラストで構成した「学習の前に」が設けられ、学習内容と生活との関連を見出し、興味・関心を高めてから学習に入ることができるようになっている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○公民的分野における「現代社会の見方・考え方」を、各部の本文のページで丁寧に解説している。さらに、特設ページ「アクティブ公民」や「章の学習を振り返ろう」などでは、具体的な事例や意見交換を通して、「現代社会の見方・考え方」を働かせられるように工夫されている。	
資 料	○色数の多いグラフや地図には、模様や線種、記号などが使用され、色以外での区別ができるように配慮されている。 ○表やグラフなどの図版は、記号や注記文字が明瞭で読み取りやすいように配慮されている。	
表記・表現	○本文や図版などでは、文字をはっきり読み取ることができるユニバーサルデザインフォント（UDフォント）が使用され、誤読を防ぐように配慮されている。 ○紙は、反射を抑えつつ、鮮明に発色して裏写りせず、かつ文字も書き込める軽量なものが使用されている。	
総 括	○各見開きが、本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方が工夫されている。学習内容が定着するよう、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化されている。	

【社会科（公民的分野） 調査資料 1－4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学社会 公民的分野	1 1 6 目 文
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○原則 1 授業時間で見開き 2 ページとし、この見開きで何を学ぶのかが学習課題で明確に示されている。また、右ページの側注欄には確認コーナー、表現コーナーが設けられ、基礎的な知識及び技能の確実な定着をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されており、習得した知識及び技能を用いて文章化・言語化できるようにしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○アクティビティ、チャレンジ公民では、習得した知識を使い、見方・考え方を働かせながら考察する問いを設けている。また、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり立場や根拠を明確にして議論したりするなど言語活動に関わる学習ができるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各章の導入ページ「学習のはじめに」では、活動を通して単元を貫く問いを立てたり、学習を見通したりすることができるよう工夫している。また、何を学ぶかをとらえるための教材として、学習内容と生徒の身近な生活を結び付けた漫画を採用しており、生徒が章の学習に取り組みやすくなるように工夫している。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○見方・考え方コーナーを設け、その見開きでの学習課題の解決に向けての手がかりとなる主な見方・考え方の例を示している。	
資 料	○資料を用いた活動を示す「資料活用コーナー」を設けており、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができる。 ○教科書内で関連する事項同士を結び付ける参照ページコーナーで、多面的・多角的な見方をすることで、学習内容の定着を図っている。	
表記・表現	○教科書全体を通して視認性の高いユニバーサルデザインフォントを使用し、送り仮名は判読しやすいゴシック体を使用している。	
総 括	○各編章は導入ページ「学習のはじめに」で単元を貫く問いを立てたり、学習を見通したりすることができるようにしている。本文ページでの学習を終えた後のまとめと振り返りページでは、単元を貫く問いに答える活動ができる工夫がある。この構成を各内容のまとまりで一貫させることで、生徒が学習を効果的に進めることができるようにしている。	

【社会科（公民的分野） 調査資料 1－5】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい公民教科書	2 2 5 自由社
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○本文の側注が多く、難解な用語の確認が容易にできるようになっている。各章末の「学習のまとめと発展」で基礎的・基本的な知識の習得ができるように工夫されている。 ○単元が「通し番号」なので、どれぐらい学習しているか一目で分かるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○単元ごとにある「アクティブに深めよう」では、教科書に自由に書き込めるワークシートが掲載されており、自分の考えをまとめたり、話し合い活動に使用したりすることで、多面的・多角的に考察する力を養えるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○コラム「もっと知りたい」の内容が充実しているため、発展的な学習の参考になる資料となっている。また章末の「学習のまとめと発展」では、5つの課題から個人で取り組みやすい課題を選んでまとめることができるため、自ら学びに向かいやすいように工夫されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○学習課題が、多様な視点から考えられるように工夫されている。また「ミニ知識」では、学習が深まるような内容となっており、課題解決のために様々な視点から考えられるように工夫されている。	
資 料	○写真資料が多く、大きく掲載されているため、興味・関心をもって学習に取り組みやすくなっている。生徒のキャラクターが分かりやすい言葉で実生活と結びつけるヒントを語っていることで意欲が高まるように工夫されている。	
表記・表現	○行間が広くてわかりやすく、グラフなどの資料が大きくて見やすくなっている。用語解説が巻末ではなく、ページ内に記載されているため学習しやすい構成になっている。	
総 括	○見開き 2 ページを 1 時間として、興味を引く「導入資料」、学習の見通しを立てる「学習課題」、分かりやすい「本文」、学習のポイントをまとめた「ここがポイント」の流れで構造化され、知識・技能が確実に定着できるような工夫がされている。	

【社会科（公民的分野） 調査資料 1－6】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しいみんなの公民	2 2 7 育鵬社
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○生徒の生活経験と結びつきの強い身近な事例が取り上げられ、興味・関心が高まるように工夫している。特に導入部分では問題提起をして、生徒が資料などをもとに、興味・関心を高めながら課題に取り組んだり、学習を進めたりできるよう配慮している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○生徒が多面的・多角的に考察できるようにバランスの取れた資料の選定、本文の記述を心がけている。また、平和で民主的な国家・社会の将来の担い手として必要な思考力・判断力を養うことに主眼を置いている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○1～5章の章末には、その章で学習した内容を踏まえて、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したり、未来の姿を構想できるような課題に取り組む「これから」を設け、学びに向かう力や人間性を養えるような工夫がある。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「対立と合意」「効率と公正」について紹介し、具体的な事例を通して学べるように工夫している。	
資 料	○図版、イラスト、写真等の資料類には正確を期し、本文の記述と関連付けて的確に揭示している。特に、口絵は、生徒が視覚的にも大いに興味をもって取り組めるよう工夫されている。また、巻末の「学習資料」には、憲法・法律・条約を掲載している。	
表記・表現	○図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の使用や表示の工夫がある。ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒にも読みやすいように配慮している。	
総 括	○公民としての基礎的教養を培うために厳選された教材・資料を通して、世の中の変化や現代の課題を多面的・多角的に考察することができるよう工夫している。 ○現代社会の課題に対して、生徒自らが主体的に取り組んでいく能力・態度を養うという観点から、学習方法、調査方法、問題解決のための手がかりなどを示している。	

【社会科（地図） 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい社会 地図	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○判型をA 4 判にすることで今まで以上に地図を拡大したり、広い紙面を生かした資料を掲載したりすることで、生徒が視覚的に理解しやすく工夫されている。 ○QR コンテンツを活用することで地形図や雨温図など、地理の学習で用いる資料の読み取りを練習できるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「B e e ’ s e y e」にある問いに取り組み、複数の図を比較・検討することで資料活用能力や思考力を高められるよう工夫されている。 ○地理・歴史・公民の教科書にある内容をより詳しく見る資料が載っていたり、それらの教科書とは別の側面から見られたりするよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○SDG s (持続可能な開発目標)に代表される現代社会の諸課題を捉え、主体的に解決に取り組むことができるよう工夫されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○「B e e ’ s e y e」にある問いや地図帳内の関連する資料を組み合わせることで課題を見だし追究する活動ができるよう工夫されている。	
資 料	○インデックスが世界、日本、統計、索引で大きく分けられている。 ○SDG s をテーマに現代社会の様々な問題に対して考えるきっかけとなる資料を多数掲載している。 ○QR コンテンツにある「My G l o b e」や「社会科デジタルマップ」、「世界の景観」等を利用することで様々な角度から地域を見ることができる。	
表記・表現	○授業で教員が指示しやすいように資料に通し番号がつけられている。 ○不要な陰影や立体感のあるデザインをなくし、シンプルで学習内容に集中できるフラットデザインが採用されている。 ○色覚特性がある人が容易に見分けられる色の組み合わせを採用している。 ○ユニバーサルデザインに対応して開発されたUDフォントをほとんどの文字に採用している。	
総 括	○A 4 判にしたことで、より広い視点で地図を眺めることができ、地域の特徴をより比較しやすくなっている。 ○歴史・公民分野でも活用できる地図や資料を掲載しており、3 年間を通して活用できるように工夫されている。 ○「B e e ’ s e y e」の地図帳を深く読み取るヒントとなる問いがあり、それぞれ性質の異なった問いに取り組むことで、資料を比較する力や思考力を高めることができるよう工夫されている。	

【社会科（地図） 調査資料 1－2】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学校社会科地図	4 6 帝 国
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○世界各州の鳥瞰表現の地図を設置していることで、各地域の特色を大観し、概略をつかむことができ、地域理解をサポートするための工夫がされている。 ○地図活用の技能を定着させるために、それぞれの項目に対応するQRコンテンツが用意されており、地図の基礎・基本を確認できるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「社会的な見方・考え方」を働かせる「地図で発見！」のコーナーや「歴史的な見方・考え方」「現代社会の見方・考え方」を働かせられる問いも設置されている等、思考をより深められるよう工夫されている。 ○資料図を同縮尺で示すことで複数の図を比較・関連させて考察できるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○持続可能な社会の実現に向けて考察できるよう、SDGsアイコンが設置されており、自然災害や防災意識も高められるような資料が豊富に収録されている。 ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○「地図で発見！」のコーナーでは各所に主体的に学習に取り組むための問いが設置されており、QRコンテンツを利用することで解答や解説も確認することができる。	
資 料	○歴史や公民・修学旅行など多目的に利用できる地図が掲載されており、イラストを交えて掲載されるなど様々な場面で利用できるよう工夫されている。 ○豊富な写真資料があり、「地図で考える持続可能な社会」の資料では、左ページが課題を理解するための写真を、右ページでは問題解決への取り組みを紹介する写真を掲載している。	
表記・表現	○書体を、可読性の高いユニバーサルデザイン(UD)フォントにしており、その中でも特に読みやすい丸ゴシック系を多用している。 ○地図やグラフの色づかいを色覚特性のある生徒にも判別しやすくしている。 ○タイトルやページ番号、インデックスはそれぞれの位置を原則固定し、レイアウトの統一を図っている。 ○インクルーシブ教育に配慮し、地名を手話で表すコーナーを設置している。	
総 括	○大判の紙面を生かし、世界各州の鳥瞰図のイラストや「機能地域」が的確に捉えられる日本地図が掲載されており、見たい地域を大観することができる。 ○「地図で発見！」のコーナーや社会の他分野とも関連する事項が掲載されていることで、生徒の追究をサポートすることができる。 ○持続可能な社会の実現に向けて考察できるページが設けられており、日本の自然環境とその影響、対策について考えることができる。	

【数学科 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい数学	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○日常生活や社会の問題を解決したり、既習をもとに、数量や図形についての性質などを見出したりする数学的活動を通じて習得できるように工夫している。 ○生徒のつまずきに対応した指導が可能となるよう学力調査等で課題が見られた内容も扱っている。 ○知識・技能の定着が効率よくできるようにフラッシュカード形式のデジタルコンテンツが用意されている。章末にも解説付きのデジタルコンテンツが豊富に用意されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「数学の問題発見・解決の過程」を重視した数学的活動を各章に設定している。 ○問題発見から解決の過程を確認しながら学ぶページが設けられ、統合的・発展的に考察することを促すように発問を設定している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○生徒の生活経験に即した身近な素材を数学を活用する現代的な課題の視点で選定し、生徒の課題意識を高め、教科横断的な授業づくりができるように工夫している。 ○問題解決過程において他者との学び合いを大切にし、互いの考えを認め、協働できるような伝え合う活動を大切にしている。 ○自らの取組を評価・改善しようとする態度を育てるために、振り返りの場面を随所に設定している。 ＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ ○問題解決の過程で生徒が数学的な見方や考え方を働かせたり、振り返ったりする工夫（虫めがねマークの吹き出し、学びを振り返ろうなど）がされ、問題解決的な学習を重視していることが伺える。	
資 料	○挿絵、図表等は、生徒の学習に効果的（興味関心の向上、問題場面の把握、視覚的な理解など）なものとなるようにされている。 ○資料は最新のものを使用し、学習内容と関連する身近なものを提示している。	
表記・表現	○紙面上に十分余白を確保するとともに、多色の使用を避け、全体の基調を統一している。 ○新出用語には、ルビをつけるなど理解しやすい表記にしている。	
総 括	○巻頭で「デジタルコンテンツの使い方」「大切にしたい数学の学び方」「この本の構成と使い方」などを掲載している。章末には難易度の異なる問題 A、B が設けられ、巻末には学びを振り返るための「もっと数学をつなげよう」が設けられている。 ○極めて多くの QR コードが準備されている。	

【数学科 調査資料 1－2】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	数学の世界	4 大日本
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○前学年までに学んだことをもとに、新たな学習への興味・関心をもって取り組めるように、学習の導入部分には、既習事項との関連を重視した導入課題「考えよう」を設けている。 ○「思い出そう」では、既習内容を記載したり、巻末に前学年までの復習を設けたりし、学習を振り返りながら知識・技能を身に付けられるように工夫している。 ○学んだことを確実に定着させるように、学習したことと同じように取り組む「たしかめ」や適用練習「Q」を補充する「プラスワン」、節末の「たしかめよう」など繰り返し練習する機会が設けられている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○見通しをもって学習に取り組むことができるように、導入課題「考えよう」で取り組んだことをもとに、学習のめあてを明記している。 ○各章の「活動」において、式や表、グラフなどを利用して調べたり、説明したりする場面を設けるとともに、他の人の考えを読み取る活動も設けている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各章の「活動」では、複数の生徒の考え方を提示し、それを読み取って比べることを通して多様な考えを認め、よりよく解決しようとする態度を養えるようにしている。 ○問題発見・問題解決の流れに沿って取り組む「利用」の課題では、問題解決後にその過程を振り返ったり、評価を促す問いを設けたりしている。 ＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ ○巻頭の「数学の世界へようこそ」では、問題発見・問題解決の流れを示し、働かせたい数学的な見方・考え方を、既習の内容を用いた具体例とともにまとめてある。また、新しい問題の発見やよりよく問題を解決するために、数学的な見方・考え方を示している。	
資 料	○中学生キャラクターが、対話を通して、考え方などに気づくよう促している。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。	
表記・表現	○学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で記載されている。 ○新しい用語はゴシック太字で示され、必要に応じてルビが振られている。	
総 括	○巻頭で「この教科書の使い方」「数学の世界へようこそ」「数学的な見方・考え方」「研究をしよう」「ノートの作り方」が掲載されている。 ○各章で1回、問題発見、解決の流れが示されている。また、本文や章の終わりに自分で取り組めるよう「力をのばそう」「活用・探究」「レポートを書こう」など、巻末には数学と社会事象の関連を図るため「課題学習」「MATHFUL（読み物）」などが設けられている。	

【数学科 調査資料 1－3】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学校 数学	11 学 図
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○例では、解法や解答を示すだけでなく、基になる原理・法則等が理解できるように、小見出しをつけて重要な考え方を明記している。 ○既習事項を示したり、類似問題を多く用意したりして、基礎的・基本的な知識が確実に習得できるよう工夫している。 ○基礎的・基本的な知識や技能が習得できるようにデジタルコンテンツを用意してある。特に「パトロール隊」では生徒が誤りやすい問題の解説が用意されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「説明する力をつけよう」では、わかりやすく説明するには、どんなことが必要なのか考える場面があり、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫がされている。 ○「数学的活動のページ」では、日常生活や社会の事象を数理的にとらえ、数学的に考える思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○記号「＋・－」の由来などが記載された「Tea Break」が設けられ、学習中に持つ疑問について解説し、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫している。 ○章末の「数学へのいざない」では、章の内容を深めたり広げたりする内容を取り上げ、数学のおもしろさや有用性を実感できるように工夫している。 ○学習を対話的に進められるような工夫（導入の場面で見通しを立てる話し合い）がなされ、自分の考えを伝え、他者の考えを認められるように構成されている。 ＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ ○「算数・数学の学習過程のイメージ」を実現できるように、章全体が「日常生活や社会の事象・数学の事象」→「生徒自身の疑問・問題発見」→「数学的に表現した問題・焦点化した問題」→「数学的な見方・考え方を活用した予想」→「問題解決」→「まとめ」→「生徒自身の新たな疑問」の構成になっている。	
資 料	○身のまわりにある建造物や伝統文様などの写真を取り上げ、興味・関心を高められるように工夫されている。 ○挿絵やキャラクターを使用し、理解の手助けになるようにしている。	
表記・表現	○UD フォントの使用、文節で改行し文章を読む段階でつまづくことがないような工夫などインクルーシブ教育に配慮している。 ○色覚特性について配慮され、カラーバリアフリーとなっている。	
総 括	○巻頭で「この教科書を使った数学の学び」「ノートを使い方」「QR コードの使い方」などが掲載されている。 ○各領域の始めに、既習事項をまとめた「ふりかえり」のページがある。章末には「深めよう」のページが設けられ、より発展的な問題が用意されている。	

【数学科 調査資料 1－4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名	中学数学		17 教 出
項目			
内 容	<知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○例や例題と問の間に、例や例題に類似した問題（たしかめ）が設けられ、スモールステップで、知識・技能をより確実に習得できるように工夫されている。 ○「章を学習する前に」では、その章に関連する既習内容を確認することで、スムーズに学習が進められるよう工夫されている。 ○各章末に学習のまとめが穴埋めで設けられ、学習内容を振り返ることができる。		
	<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「学んだことを活用しよう」では、学習内容を統合的・発展的に思考したり、方法や理由を説明したりする身近な題材が活用問題として設けられている。 ○巻末の「実力アップ問題」では、章の学習内容を応用してさらに学んだことを深める問題が設けられている。		
	<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○課題把握を支援するためのデジタルコンテンツが設けられている。 ○章の始めに「Let's Try」で学習意欲を高める身近な問題が導入として設定されている。また、章末の「数学の広場」「数学しごと人」では、発展的な内容や知識、数学の歴史や社会で数学を活用している職業等を紹介し、生徒が興味・関心を持つように工夫されている。		
	<数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> ○「学びのプロセスページ」では、問題発見・解決の過程が示されており、生徒たちが見通しを持って、主体的・対話的に課題に取り組めるよう工夫されている。 ○問題を解決するときに働かせた数学的な見方・考え方を振り返る場面が「！」マークで示されている。また、見方・考え方を言語化し、端的にまとめてあり、学びが定着できるよう工夫されている。		
資 料	○挿絵や写真を用いて、課題の具体場面を想像しやすくしてある。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「まなびリンク」マークが付与されている。		
表記・表現	○小見出しの前後や、指導の流れの区切りとなるところで行間をあけて、読みやすくしている。また、文節のまとまりなど読みやすい位置で改行している。 ○定理のまとめなどを枠で囲み、数学用語などは書体を変え、学習のポイントをとらえやすくしている。		
総 括	○巻頭で「教科書の使い方」「大切にしたい数学的な見方・考え方」「工夫をしてノートを書こう」などが掲載されている。 ○章の始めに既習事項を振り返る「学習する前に」が、章末には章の基本的な学習内容を確認するための「学習のまとめ」が設けられている。 ○章の前、章の中、デジタルコンテンツに多くのスモールステップが設けられており、段階的に学べるようになっている。		

【数学科 調査資料 1－5】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	未来へひろがる数学	61 啓林館
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○例、例題で、基礎・基本に相当する内容を扱い、生徒が自ら取り組む際の参考となるよう工夫されている。 ○例、例題の解説も途中を省略することなく丁寧に示してある。 ○知識・技能を確実に定着させるための問が、例や例題の後に配置してある。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○全ての単元で「～の利用」の節を配置し、3段階のステップ課題を設定してある。 ○「説明しよう」「話しあおう」のフラグを立て、表現力を身につけるための問題を明確にしている。 ○「問題発見」（きまりを見つける、条件をかえる、範囲をひろげるなど）と「問題解決」（同じように考える、結論からさかのぼる、分類整理するなど）の数学的な見方・考え方を区別して明示している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○生活や社会における数学の有用性を実感できるように、また、生徒が興味・関心を持って学習に向かうことができるよう各節の冒頭に身のまわりの題材などを扱っている。 ○既習事項から新しい学習へつなげる「ひろげよう」を設定し、生徒が主体的に取り組めるようにしている。 ＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ ○数学的活動が生徒主体となるよう問題・解決の過程を具体的に明示している。 ○数学的活動の過程で用いる生徒の数学的な見方や考え方を紙面上に可視化している。	
資 料	○学習内容と関連付けて、写真で紹介したり、本文の説明を補うための説明図や表を効果的に使用したりし、学習の理解を手助けしている。 ○資料や写真は生徒に馴染みやすいものとなっている。	
表記・表現	○例、例題にタイトルを付与し、学習内容を明確にしている。 ○インデックスをつけ、検索しやすくしている。	
総 括	○巻頭見返りで「ICT の活用でひろがる数学の学習」、巻頭では「教科書の構成と使い方」（表現する力を身につけよう、学びをたしかなものにしようなど）、「ノートをくふうして、学習に役立てよう」が掲載されている。 ○節のとびらに導入課題を設け、「話し合おう」「説明しよう」を設けることで、主体的・対話的で深い学びが進められるようにしている。また、読み物「数学ライブラリー」や巻末に身の回りの課題を扱った「学びをいかそう」が設けられている。 ○QR コードが豊富に用意され、コードに表題としてコンテンツの内容が示されている。	

【数学科 調査資料 1－6】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	これからの 数学	104 数 研
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○学習のゴールが明確になるように、その時間の学習活動を具体的に示している。 ○その章の学習に関連する既習事項を振り返ることができるように章始めに「ふりかえり」のページを設定している。 ○例や問をスモールステップで設定し、つまずきを減らすよう工夫されている。 ○個の理解度に応じた QR コンテンツが用意されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○問題解決型の学習を前提として構成している。 ○見いだしたことがらを説明する問いや方法、理由を説明する問いを様々な場面に設け、生徒の考える機会を多く設ける工夫がされている。 ○問の後に、生徒が別の視点から考えさせるような Q を設けている。 ○キャラクターの対話から働かせたい数学的な見方・考え方を示している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○新章に入る際には、身近な題材を扱うことで、生徒の興味・関心を高められるよう工夫し、主体的に学べるようにしている。 ○各章の学習の最後に、学んだ知識を活用して取り組む課題が設けられている。 ○SDGs や他教科の学習内容と関連付けられるようにしている。 ＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ ○キャラクターの対話形式で問題解決の過程の一部に焦点化されるように工夫されている。 ○多様な解決方法が考えられる場面では、複数の解決方法を取り扱っている。	
資 料	○視覚的理解と生徒が興味を持つ図や身近なものの写真を使用している。 ○中学生キャラクターたちが身近な問題場面について、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫している。	
表記・表現	○ユニバーサルデザインフォントを使用し、行間にも余裕を持たせている。 ○発達段階を考慮し、1 年生では算数から数学に変わった抵抗感を抑えるような表現をしている。	
総 括	○巻頭で「この教科書について」「学習の進め方」「ノートの作り方」が示されている。 ○章の始めにその章の学習に関連する既習事項を振り返ることができるように「ふりかえり」のページを設定している。章末には、生活と学習の関連を図るために、「学んだことを利用しよう」が設けられ、巻末には社会とのかかわりを考えることができる話題「数学旅行」が設けられている。 ○後見返しに学びの自己評価が用意されている。	

【数学科 調査資料 1－7】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名	中学数学	1 1 6 日 文
項目		
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○基礎的・基本的な内容を理解しやすく、また、復習しやすくするために、タイトルのついた＜例＞をきめ細かなステップで解決している。 ○キャラクターが誤答に注意を促し、よくある間違いを紹介することで学習支援を図っている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○事象を論理的に考察する数学的活動の場面が適宜設けられ、その横欄の大切な見方・考え方には、どのような見方・考え方を働かせるかが具体的に示されている。 ○数学的に説明をする学習の初期段階では、穴埋め形式で説明を完成させる問題を設けるなどして、数学的な表現力が段階的に身に付けられるよう工夫している。 ○数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する数学的活動の場面として、＜深めよう＞が設けられている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「主体的に学習に取り組む態度」を評価するための課題として、各章に《学びに向かう力を育てよう》が設けられ、その一部には《ふり返りシート》が用意されている。 ○＜身近なことがら＞から数学の問題を見いだししていく数学化の過程が丁寧に扱われている。 ○巻末に付属として、ふり返りシートが用意され、学びを深める工夫がされている。 ＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ ○問題解決的な授業展開の流れを《学び合おう》に明示することで、主体的・対話的で深い学びを実践できるような工夫をしている。 ○数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成できるように導入問題である＜Ｑ＞や、＜考えよう＞＜話し合おう＞などのマークが付いた＜問＞が、工夫されている。	
資 料	○中学生キャラクターたちが自分の考えを説明する等場面を示し、多様な考え方があはることに気づかせるようにしている。 ○デジタルコンテンツが使用できる内容にはＱＲコードが付いている。	
表記・表現	○本時の学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で明示されている。 ○新しい用語は、ゴシック太字で示され、ルビが振られている。	
総 括	○巻頭で「この本の使い方」「数学の学習を始めよう！」「学びに向かう力を育てよう！」「ノートのくふう」「ＩＣＴを活用しよう！」などが掲載されている。 ○各章の前に「次の章を学ぶ前に」が設けられている。また、「学び合おう」などでは切り離して使える「対話シート」が用意されている。「数学のたんけん」や巻末の「数学マイトライ」では、数学と社会事象との関連を図っている。	

【理科 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい科学	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○一連の流れの中で「課題→結論」が示されているため、知識及び技能が習得しやすい工夫がされている。また「これまでに学んだこと」の記載が随所にあり、系統立てた理科学習になるよう意識されている。また、章末(学んだことをチェックしよう)や確かめ問題、活用問題が掲載され、生徒の習熟度に合わせて学習ができるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○巻頭にある「『探究』」の流れを確認しよう」や「学びのフローチャート」で探究の進め方や全体での活動を確認することができる。また、観察・実験においては、結果の見方や考察のポイントが示されており、思考力や表現力の育成場面が設定されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○学習の導入段階で、身のまわりの課題を取り上げたり、動画の活用を図ったりするなりかど、主体的に学びを広げるための工夫が豊富にされている。また、「おてがる科学」や「まちなか科学」などのコラムが充実しており、日常生活と学習内容に関連をもたせ、理科を学ぶ意味や有用性を実感できるようになっている。 ＜科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫＞ ○理科の見方や考え方を活かす場面において、キャラクターのセリフが問題解決におけるヒントとなっている。また、観察・実験では、極めて流れを追いやすいレイアウトとなっており、見通しをもって学習に取り組める配慮が見られる。 ＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞ ○「お仕事図鑑」や「社会につながる科学」などで、日常生活や社会との関連を振り返ることができるよう配慮されている。また、3年間の学習をとおして自然災害や防災に触れており、防災や減災への意識を養うための工夫が見られる。	
資 料	○単元の最初では、見開き 2 ページが写真やイラストを用いたダイナミックなビジュアル紙面となっている。これにより、生徒の思考や学習意欲を喚起する工夫としている。 ○デジタルコンテンツが豊富であり、家庭学習や学習形態に応じて活用しやすい工夫がされている。	
表記・表現	○本文などはUDフォントが採用され、本文も読みやすい位置で改行するなど、読み間違いをしにくい配慮が見られる。 ○安全のための注意事項については、配色を変えるなどの工夫をしている。	
総 括	○現行の教科書と同様、各節の問題発見～ふり返り・活用までの流れに統一感があり、視線の流れが上下方向に統一されていて、流れを追いやすいレイアウトである。 ○見開きが 1 時間の学習内容になっているので、学習のペースがつかみやすい。 ○単元末に「学習内容の整理」の他、「確かめ問題」「活用問題」が掲載されている。	

【理科 調査資料 1－2】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	理科の世界	4 大日本
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「問題を見つけよう」等のマークを設けて具体的例を示し、探究の過程に沿った学習を意識的に進めることができるように工夫されている。観察・実験では、イラストを主として方法が示されているが、結果の例は、写真や図表で示されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○巻頭の「理科の学習の進め方」において、自然の事物・現象を科学的に探究していく方法が示されている。また、単元の最初では学習の見通しをもつため、全体のテーマがとらえられるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「これまでに学習したこと」「これから学習すること」が単元最初に記載されており、見通しをもって主体的に学習に取り組める構成としている。その上で、深い学びができるよう単元の最後には「探究活動」が用意されており、学習したことを活用できるように工夫している。さらには、より深い学びへつながるよう「理科の世界WEB」が用意され、学習したことを確実に定着し、より深く理解できるようになっている。 ＜科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫＞ ○探究の過程がマークで示され、重視したい項目も明確であることから、学習が進めやすい構成となっている。対話的な活動(話し合おう)も用意されており、生徒が主体的に取り組める工夫が見られる。 ＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞ ○「くらしの中の理科」において、日常生活や社会との関連が紹介されており、理科の有用性が実感できるようになっている。また「つながる」や「思い出そう」で示されている他教科や既習事項との関連についても、具体的な内容で記載されている。	
資 料	○ウェブコンテンツである「理科の世界WEB」は、個別最適な学びや協働的な学びに対応している。 ○「Science Press」「Professional」「科学のあしあと」など、学習内容に関連が深い資料が用意されている。	
表記・表現	○UDフォントが採用され、文字の読みやすさや図の配色等についても十分な配慮がされている。また、絵や写真の配置、本文の改行位置などにも工夫が見られる。 ○実験の注意事項は、黄色下地とし、特に目立つように配慮されている。	
総 括	○各章では、科学的な探究の過程が丁寧に示され、生徒が見通しをもって科学的に探究することで、主体的・対話的で深い学びが実現できる構成となっている。 ○「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」が章末に収録されており、知識の定着が図れるようになっている。	

【理科 調査資料 1－3 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告】

書名 項目	中学校 科学	1 1 学 図
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○時間毎の課題や見方、考え方、まとめが示されている。また、観察、実験においては、手順の説明や結果、考察等に十分な紙面を割き、写真も多用されていることから、内容が一目で分かる配慮がされている。単元末には、2つのステップで構成された「学習のまとめ」があり、基礎・基本の定着が図れるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○観察・実験では、結果や考察のポイントが示されており、思考力や表現力の育成につながる工夫がされている。さらには、「結果から考察する」では、結果自体が写真で示されており、授業中や家庭学習での振り返りとして活用しやすい作りである。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各章の最初に「できるようになりたい目標(Can Do List)」が示され、見通しをもって学習に取り組むための工夫が見られる。また、同ページにある「学びのあしあと」では、学習前後の自分の考えを書き出すことで、学習に対する自らの変容について知ることができ、さらなる学びに向かう力を育むことにつながっている。 ＜科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫＞ ○巻頭にある漫画や随所に記載のある「理路整然」で、探究するための資質や能力を身につけさせようとしている構成である。また、探究の流れが「気付き」から「考察」までイラストと矢印で示されており、見通しをもって学習が進められるよう工夫されている。 ＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞ ○巻末の補充資料が充実しており、理科と日常生活との関連が多く紹介されている。そのため、学習した内容の有用性を実感できることにつながっている。また、随所に「つながり(数学)」などが示され、他教科との関連が図れるようになっている。	
資 料	○デジタル教材としてのミライ教科書が用意され、既習事項の確認や動画や操作系教材を利用することができる。 ○すべての教科書紙面がウェブページとして再構成されており、幅広い活用が可能である。	
表記・表現	○UDフォントで作成されている。また、重要語句などには太字のゴシックやふりがなが振られ、下地の配色などに工夫が見られる。 ○実験上の注意事項については、さらに他とは違う配色とし、十分な注意を促す工夫が見られる。	
総 括	○各章の最初で示される「できるようになりたい目標(Can Do List)」にて、学習目標を明確に把握できるつくりとなっている。 ○随所に記載がある「理路整然」が、探究の組み立て方を知り、深めることにつながっており、これから求められる理科の力が身につくよう配慮されている。	

【理科 調査資料 1－4】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	自然の探究 中学理科	17 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各節において「課題」が示され、その課題解決のために観察・実験が用意され、考察、結論という流れである。課題が明確であり、観察・実験の方法はステップにて細分化されている。手順についてはイラストが多用され、結果は写真を用いるなどメリハリのあつ構成である。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○巻頭にある「探究の進め方」が、探究学習をどのように進めていけばよいかを示している。また「探究の進め方」が折り込みになっていることで、いつでも参照できるように工夫がされている。また、観察・実験の手順が詳しく記されており、論理的な思考から結論が導ける構成となっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「やってみよう」「参考」「チャレンジ」などを通じて、課題をみつける活動や、さらに調べていく活動が充実するようになっており、主体的に学習が進められる工夫がされている。また、各章始めには「これまでの学習」「学習前の私」が示され、この先の学習を見通しもって取り組めるよう意識されている。 ＜科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫＞ ○各単元にて「疑問から探究してみよう」が設定され、探究学習に取り組めるようになっている。その際、巻頭にある「探究の進め方」と照らし合わせることで、その時点の学習が全体のどの学習段階にあるのかを確認できるようになっている。 ＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞ ○「ハローサイエンス」にて科学の話題が紹介され、日常生活や社会との関連について学ぶことができる。また、「ブリッジ算数」などにより、理科との関わりの深い他教科の内容が紹介され、相互に関連が図れるように工夫されている。	
資 料	○教科書に掲載されているQRコードからアクセスできる「まなびリンク」で、個別最適な学びができるようになっている。 ○巻末資料では、基礎技能がまとめられている。また「ハローサイエンス」「科学者列伝」等、学習との関連が図られ、より深い学びにつながる工夫となっている。	
表記・表現	○UDフォントが使用され、ユニバーサルデザインである。また、色づかいもどの色覚特性でも判別ができるようになっている。 ○重要用語は赤字で強調されている。また、実験の注意事項も目立つ記載としている。	
総 括	○「探究の進め方」「疑問から探究してみよう」で、見通しをもった探究学習がしやすい構成となっている。 ○「要点チェック」に始まり、「学年末総合問題」までの5段階ステップで、学力の定着と向上を意識した紙面構成となっている。	

【理科 調査資料 1－5】 第 14 探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	未来へひろがるサイエンス	61 啓林館
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○単元導入においては、単元を印象づける見開き写真や「はてなスイッチ」から関連する動画を活用することができる。また、各節に大きな？マークとともに、学習課題が示され、順を追って探究的な学びとなるよう構成されている。観察・実験そのものも、生徒が主体的にデジタルコンテンツを操作できるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「それってホント？」に示されているあえて間違っている意見を通して考えることにより、思考力や表現力を高める工夫をしている。また、生徒が主体的に探究する「探Q実験」が各単元に1つずつ用意され、「探Qシート」を活用することにより、探究の流れをつかみ、主体的・対話的な学びが実現できるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各節にある「考えてみよう」で、観察・実験を計画したり、結果を予想したりする活動を通じて、課題の追究に取り組む流れとなっている。観察・実験では、見通しをもって行えるよう1つの流れとなるよう示されている。 ＜科学的に探究する学習活動の充実を図るための工夫＞ ○巻頭の「探究ガイダンス」において、探究を意識して学習が進められるよう漫画を用いて具体例を示している。また、観察・実験では、段階を追って探究の過程が進むように配慮されている。 ＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞ ○「つながる学び」で既習事項を振り返り、高等学校の学習内容が「発展」で学べるようになっており、系統を大切に学習となっている。また「サイエンス資料」内で、他教科に関連する話題が豊富に掲載されている。	
資 料	○多様な学びが実現できるQRコンテンツが、豊富に用意されている。また、観察・実験の場面でも、ICTを活用して生徒が主体的に操作できるようになっている。 ○「〇〇ラボ」において、日常生活や社会との関連が紹介されている。科学を身近に感じるために有用な工夫である。	
表記・表現	○UDフォントが採用され、色覚特性も含めた見やすく読みやすいデザインになっている。多様性を尊重した紙面にもなっており、インクルーシブ教育に配慮している。 ○実験の注意点は、文字とアイコンで示され、具体的な注意点は、赤字で説明されている。	
総 括	○各校の教育課程にあわせて柔軟に単元順序が組み替えしやすいよう3学年とも「生命→地球→物質→エネルギー」となっている。 ○「学習のまとめ」を受けて、「力だめし」「みんなで探Qクラブ」と段階を追う構成になっている。	

書名 項目	中学音楽 音楽のおくりもの	17 教 出
内容	<知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「Let's Try! 指揮をしてみよう」では、指揮の仕方について具体的にイラストや説明文が示されており、視覚的にもわかりやすくなっている。また、動画コンテンツでは指揮者と一緒に指揮をすることができる等、基礎的な知識・技能を身に付けられる工夫がされている。 ○「Sing! Sing!」では姿勢や息のコントロール、口形や母音の発音等、歌唱表現の基礎的な技能や創意工夫して表現するための解説がイラストや楽譜で示され、一人一人が確認して学習できるように工夫されている。 <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「Active!」では、曲の要素や感じ取ったこと、雰囲気について直接書き込むことができるようになっている。また、「話し合おう」ではどのように表現を工夫するとよいのかを考える場面が設定されており、実際に歌って確かめる等の思考が深められ、実感をともなう工夫がされている。 ○各学年の「比べてみよう」では、各教材に関連した曲を互いに比較し、曲の特徴を言葉で表現し、話し合うなど表現の仕方を考え、学びが深まるように工夫されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○歌唱教材と鑑賞教材においては、すすんで学び合うための活動例〈Active!〉が掲載されている。また、楽曲のよさや魅力についてまとめるコーナーや〈表現の仕方を調べてみよう〉〈話し合おう〉が設けられ、創作教材においては教材ごとに作品を発表し交流する機会を設定し、主体的・対話的で深い学びを導き出すよう配慮されている。 <音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○見方・考え方を働かせる工夫として「音楽を形づくっている要素」が〈学習の進め方〉と〈どんな特徴があるかな?〉のページに整理して示され、その働きを意識しながら学ぶことができるよう配慮されている。 ○「音のスケッチ」の創作教材では、言葉の抑揚やリズムを旋律と関連付け、まとまりのある作品ができるように活動の手順を提示するなどの工夫がされている。 <生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○「私たちのくらしと音楽」ではMP3や著作権について示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発展、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。 ○音や音楽が、生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかといったことに生徒が意識を向けることができるようなページが設けられ、音楽の学習を通して社会とつながるよう工夫されている。	
資料	○鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったことの特徴をまとめるための書き込み欄や楽譜が色分けされ、対比がわかるように考えるポイントが掲載されている。 ○巻末では、様々な音楽や楽器の説明が、写真を加え整理して掲載されている。 ○二次元コード「まなびリンク」には、教科書の内容にリンクした動画や音声等が準備され、実際に楽器ごとの演奏を確認しながら授業を進めることができる等、主体的な学びを引き出す工夫がされている。	
表記・表現	○楽譜を含めた大部分のページでUDフォントが使用されており、誰もが読みやすい文章や楽譜となるよう配慮されている。 ○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されており、わかりやすい。 ○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」には、掲載ページも示されているため、学びの振り返りができる。また、発展として「音の三要素」が掲載されている。	
総括	○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学習MAP」で年間の学習内容を関連付けて示しているため、系統的な学びができる。 ○紙面上の二次元コードを通じた、良質なデジタルコンテンツ（動画、音声、ワークシート）の活用により、学習への意欲を高め、学びを活性化し、確かなものにすることができる個別最適な学習への配慮がされている。	

【音楽科（一般） 調査資料１－２】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学生の音楽	27 教 芸
内容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「指揮をしてみよう！」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するためのポイントがわかりやすくまとめられ、発達の段階に応じて習得できるように工夫されている。 ○「My Voice」では、発達の段階に応じた歌い方をイラストやコメントで紹介し、わかりやすい。また、民謡・長唄では、絵譜を使って唄い方の特徴が示され、興味・関心をもって取り組むことができる工夫がされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各学年の「学びのコンパス」では気づいたこと（知覚）と感じたこと（感受）との関わりについて思考した内容を記述する場面や、作品例やワークシートを掲載するなど考える場面が設定され、感じ取ったことについて書き込めるようになっている。 ○各教材では考えたいポイントとして音楽を知覚する際の焦点が示されており、楽譜と関連付けながら音楽を形づくっている要素が示されていたりするなど、生徒の「見方・考え方」を働かせる深い学びにつながる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「学びのコンパス」の「深めよう！」では、音楽表現を主体的に工夫する過程を重視した具体的な内容が取り上げられている。また、「challenge！！」では教材で扱う曲の他に聴き比べをし、自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。 ○1年間の学習の見通しをもつことができる「学びの地図」（学習内容の見取り）や、1年間の学習を振り返ることができる「音楽を形づくっている要素」、「音楽の学びを振り返ろう」のページが設定され、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞ ○「考えたいポイント」が新たに付け加えられ、「問いかけ」をすることで、生徒自身が課題意識を持ち、主体的に学習に取り組むことができるように配慮されている。 ○創作教材「My Melody」では、個の基礎力を習得し、「Let's Create!」では、課題や条件に沿って協働的な創作活動を体験し、発展的な学習ができるように工夫されている。 ＜生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞ ○「生活や社会の中の音楽」では、学年に応じたテーマを基に、音や音楽と生活や社会、文化との関わりについて、段階的に視野を広げて考えられるように工夫されている。 ○音楽に関する知的財産について、身近な話題を例に取り上げ、作品や著作者の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発展、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。	
資料	○各教材のページに音楽科における3つの資質・能力を確実に育成できるよう、「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」など一目で分かるように示されている。また楽曲の紹介文ではどのような曲なのか、見通しをもって主体的に取り組むことができるよう配慮されている。 ○創作教材「My Melody」では、個の基礎力を習得し、「Let's Create!」では、協働的な創作活動を体験し、発展的な学習ができるように工夫され、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた工夫がされている。 ○QRコードを読み取ることにより、豊富なデジタルコンテンツで動画や音声などの情報を視聴、閲覧することができ、個別最適な学びに配慮されている。	
表記・表現	○本文だけではなく、楽譜中の歌詞にもUDフォントが使用されている。また、色覚特性の違いが学習内容の理解に影響を与えないよう、全ての紙面、図版、イラストについて配慮されている。 ○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されており、わかりやすい。 ○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末には「音楽の約束」として楽典資料やQRコードが掲載され、音階や和音の響き等が確認できるようになっている。	
総括	○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学びの地図」で年間の学習内容が見通せるように示されている。 ○自国の文化に対する誇りを持つことができるよう、様々な伝統音楽や伝統芸能を取り上げ、生徒が興味・関心をもって地域の文化に親しみ、理解を深める工夫がされている。 ○生徒の興味・関心に応じて活用できる資料が、紙面及び二次元コードのデジタルコンテンツに豊富に用意され、協働して学習を進める場面も設定されるなど十分に配慮されている。	

書名 項目	中学器楽 音楽のおくりもの	17 教 出
内容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストでわかりやすく示されている。また、楽器の音の出し方や奏法について「まなびリンク」のQRコードを読み取ることで、楽譜に書かれている説明文を見ながら実際に音を出して確かめながら表現の工夫ができるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「聴いてみよう」「話し合おう」では、楽器の特徴や構造、奏法との関係について作品を聴き比べ、気付いたことを紹介する活動が取り入れられ、学びを深める工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○楽器ごとのインデックスや〈Let's Play!〉〈Let's Try!〉で合奏の難易度が示すなど、興味・関心に対する配慮がされ、生徒が主体的・協働的に学習が進められるよう工夫されている。 ○多様な楽器の組み合わせによるアンサンブル活動を多数掲載し、基本的な奏法を生かして他者と協働して表現することから、主体的・対話的な学びが展開できるよう配慮されている。 ＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞ ○基礎的・基本的な奏法が身に付けられるような題材が各楽器見開き左上に示され、各教材には焦点化された学習のめあてが明記されている。また、習得した知識や技能を生かして表現する「まとめの曲」へ着実に到達できるように工夫されている。 ○リコーダーの楽曲については運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。また、ソプラノリコーダー・アルトリコーダーのどちらでも学習ができるように教材が掲載されている。 ＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞ ○諸外国の音楽文化について、人々の生活との関わりを意識した扱いに配慮され、多様な曲種の音楽が扱われている。また、音楽を通じて人と人とのつながりを生み出す取り組みが紹介されている。	
資料	○「表現の仕方を調べてみよう」、「発展」ではそれぞれの楽器の特徴を踏まえて、共通点や相違点について考える取り組みや気づいたことを紹介するワークシートが掲載されている。 ○巻末にギター・キーボードのコード表が手元の写真や鍵盤のイラスト付きで掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。 ○「聴いてみよう」のコーナー等で、課題や学習方法が掲載されている。 ○「まなびリンク」として、範奏動画の視聴、別途資料等がダウンロードできるようQRコードが掲載され、様々な資料に触れることができる。	
表記・表現	○色覚等への特性を踏まえた判読性・視認性の高い配色やレイアウト、表記・表現方法、UDフォントが使用され、細部にわたり配慮が行き届いている。 ○楽譜の大きさや箏の楽譜、使用する言葉等、中学生の発達段階に配慮されている。 ○リコーダーのアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。また、和楽器（尺八・箏・三味線・太鼓）の楽譜には唱歌が表記されていて、旋律や奏法を覚える学習ができる工夫がされている。 ○巻末には「いろいろな用語、記号」で音符・休符・記号等の解説があり、掲載曲に書かれている記号が学習できるようになっている。	
総括	○口唱歌を取り入れた学習により、伝統的な和楽器の音色や響き、奏法や楽曲の特徴について深い学びにつなげる工夫がされている。 ○各楽器の基礎の習得から多彩な組合せによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。また、歌唱・創作・鑑賞で扱われている曲を器楽で表現活動し、相互のつながりが図れるように配慮されている。 ○他者と協働しながら表現を工夫したり、音楽や演奏の良さや価値を考えたりする学習の展開がある等、考えたことを交流させる言語活動が充実している。	

【音楽科（器楽 調査資料１－２） 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学生の器楽	27 教 芸
内容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○曲想と音楽の構造などとの関わりについての気付きや理解を促す内容のコラムや「Q&A」、キャラクターの吹き出しが掲載され、楽器の構え方や姿勢などわかりやすく示されている。また、奏法についてはQRコードが掲載され、音の実感をともなって活動できる工夫がされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○学習を進めるうえで、知覚・感受したことをもとに「思考、判断、表現」を行うためのヒントがキャラクターの吹き出しによって示されているほか、思考した内容を記述する場面が設定されており、実際に演奏して確かめられるようになっている。 ○「学びのコンパス」では、表現活動を通して思考力・判断力を育む場面が設定され、思いや意図をもって表現したり、自分や友達の演奏のよさや美しさを味わいながら聴いたりするために必要な情報が適切に示されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○器楽の学習の見通しをもつことができる「学びの地図」（学習内容の見取り）を設けることで、主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ○学びのコンパス「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。また、一人一人が各パートの役割を担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。 ＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞ ○楽器の奏法などについては文章とイラスト、写真を用いて解説されており、楽器の基礎的な技能の習得に配慮されている。 ○「学びのコンパス」「Q&A」や各コラムでは、小学校で身に付けたことや、音色などの基礎的な学習内容を確認し、繰り返し学習できるように工夫されている。 ＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞ ○音楽活動の経験や音楽科で得た知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す特集が掲載されている。	
資料	○打楽器のページには、奏法について写真やQRコードが掲載され、実際に音を出して練習できること等、実感をともなった活動ができるよう工夫されている。 ○巻末にギターやキーボードのコード表が手元の写真や鍵盤のイラスト付きで掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。 ○「バンドの世界をのぞいてみよう」「伝統の枠を超えて活躍する和楽器」が掲載され、生徒の興味・関心・意欲を高めて学習を一層深めることができるように工夫されている。	
表記・表現	○文字の大きさ、楽譜の線の太さ及び音符の大きさや形など、細部にわたって行き届いた配慮がなされている。 ○和楽器を用いた平易なアンサンブル曲や、生徒にとって親しみやすい曲が取り上げられており、我が国の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるような工夫がされている。 ○和楽器においては、和楽器固有の記譜法を掲載し、様々な指導実態に適応できるよう配慮されている。 ○リコーダー、ギター及び箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の５種類の和楽器、打楽器が豊富な写真を用いて扱われている。	
総括	○意欲をもって主体的に学習を進められるよう、各教材において、目標とする学習内容やその方法、考えたいポイント、学習に必要な情報が明確に示されている。 ○各楽器の基礎の習得からアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。 ○和楽器の学習では、唱歌や口三味線を歌う活動が示され、実感を伴って伝統的な音楽に親しみ、そのよさを味わえるように工夫されている。	

【美術科 調査資料 1-1】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	美術	9 開隆堂
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各題材の学習に必要な知識や技能が、図版や「美術の用語」で分かりやすく表示されている。 ○題材を通して育成を目指す資質・能力の「小見出し」や、「作者のことば」によって造形的な視点が捉えられるような工夫がされている。 ○巻末の「学びの資料」によって、技能をより深く理解できるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○生徒の活動風景やアイディアスケッチ、考えるポイントが示され、どのように主題を生み出し、構想を練っていけばよいか理解できるような工夫がされている。 ○大きな図版を掲載することによって作品の詳細な表現まで鑑賞することができ、生徒の豊かな発想につながるような工夫がされている。 ○思考ツールを紹介し、生徒が自分自身で考えが深められるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「図画工作から美術へ」で、小学校図画工作で学んだことが、どのように中学校美術につながっていくのか示されたり、「私たちに身近な美術」では漫画が資料として掲載されたりして生徒の学ぶ意欲を高める工夫がみられる。 ○SDGs 関連の題材を分かりやすいアイコンで表記したり、共同制作や地域連携の事例を取り上げたりして、社会と美術の関わりへの関心を高める工夫がされている。 ＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞ ○アイディアスケッチや生徒の活動写真、生徒の作品例などを通して、形や色彩などについて考えられように工夫されている。 ○育成を目指す資質・能力を分かりやすくするために「小見出し」を設け、言語活動が充実されるように鑑賞の観点や手順が示されている。 ○鑑賞については、友達と自分の感じたことを伝え合い、たくさんの解釈があることを理解できるように工夫されている。	
資 料	○原寸や部分拡大、見開き図版が多く掲載されており、細部まで見やすく、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。 ○仏像の世界観、日本と海外の作品の比較、など作品の掲載が興味関心を高めるよう工夫されている、 ○表紙の特殊加工でタイルの質感や油絵の筆致を、指先で触って作品の質感を想像することができるよう工夫されている。	
表記・表現	○題材を通して、身に付けたい資質・能力を3つの目標として整理し、それぞれの表記に共通アイコンが用いられ、生徒に分かりやすく示されている。 ○それぞれの活動で、主にどのような力を身に付けることができるのか「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」などの小見出しで分かりやすく表記されている。 ○各題材に登場する先生や生徒のキャラクターを使用することにより、生徒が思考のポイントを導けるような工夫がされている。	
総 括	○表紙の特殊加工でタイルの質感や油絵の筆致を触覚的に鑑賞することができ、教科書に触れた瞬間に美術に興味を持てるよう工夫されている。また、各題材に、見開きの大きな図版が掲載されなど授業の展開を意識した構成が工夫されている。	

【美術科 調査資料 1－2】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	美術	38 光 村
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○題材の初めに、表現につながる鑑賞作品が掲載され、表現と鑑賞の相互関連を意識し、一つの題材の中で、一体的に学べるように工夫されている。 ○題材の「表現」の項目で、構想を練る際の具体的な手だてが示されたり、「みんなの工夫」では制作途中を段階的に示されたりして、技能を習得できるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○発想や構想の手立てとして、生徒や作家、国内、海外の作品など、多様な参考作品が掲載され、発想や構想の手立ての参考となるよう工夫されている。 ○美術鑑賞を楽しむ手がかりとして「印象を表す言葉」「気持ちを表す言葉」「美術でよく使われる言葉」が紹介され、生徒が自分の感じ方にあった表現をしやすいように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○制作過程が見える「みんなの工夫」で、発想の仕方や表現の方法が異なる複数の生徒が試行錯誤しながら制作に取り組む様子を紹介し、生徒が「自分ならこう取り組みたい」という学習意欲を高める工夫がみられる。 ○「美術の力」や「うつくしい！」などから美術の学びを社会に生かすことができるよう工夫されている。 ＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞ ○生徒の作品紹介で「カーテンの向こうに、憧れの世界がある」のように、作品に込められた作者の気持ちを紹介し、生徒一人一人が自分らしい作品を描く参考にできるよう工夫されている。 ○自分で作った作品について、自分の言葉で語る動画が複数紹介され、「とくに工夫したところ」や「この構図にした理由」など観点を具体的に示しながら言語活動が充実されるよう工夫がされている。	
資 料	○見開きの図版や日本の美術には和紙の質感を出した紙を使い、生徒が興味をもてるよう工夫されている。 ○中学3年間で必要な技法動画 QR コンテンツを含む多くの資料がコンパクトな別冊に収められ、3年間の制作に活用できるように工夫されている。	
表記・表現	○3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の目標の表記に共通アイコンが用いられ、生徒に分かりやすい簡潔な文章で表記されている。 ○道徳科をはじめ他教科とのつながりが表記されており、教科等横断的な学習や意識を高められるような工夫がされている。 ○各題材にSDGsに関連する目標の番号を示したり、関連する美術作品を紹介したりし、持続可能な社会について考え行動できる生徒を育てるための工夫がされている。	
総 括	○別冊資料やQRコードにより、多くの資料が用意されており、技能や鑑賞など様々な視点から題材を理解できるように工夫されている。 ○「みんなの工夫」では、発想、アイディアから順を追って作品の制作過程や考えたことをたどれるようになっており、発想や構想を広げられるように工夫されている。	

【美術科 調査資料 1－3】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	美術	116 日 文
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○題材の冒頭の「鑑賞の入り口」（緑色）や、作品別の「造形的な視点」（青色）が色別に統一されたり、吹き出しでポイントが示されたりして、造形的な視点が捉えられるように工夫されている。 ○技能の習得については、「表現のヒント」（オレンジ色）や「作者の言葉」（赤）、巻末の「学びを支える資料」によって理解できるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「鑑賞の入り口」や「造形的な視点」を通して作品を造形的な視点で見つめることで、見方や感じ方を働かせて深められるように工夫されている。 ○「表現のヒント」で発想の仕方や様々な技法を紹介し、自ら主題を生み出し、豊かに発想し、構想を練ることができる工夫が見られる。 ○各題材に、授業の導入に活用できる動画が用意されており、授業の流れが作れるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「美術との出会い」や「学びの探求と未来」、「学びの実感と深まり」と題した資料を掲載しており、生徒の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○様々な職業の人物紹介や「社会に生きる美術の力」が掲載され、美術の学びが生活や社会につながるということが理解できるよう工夫されている。 ＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞ ○思考のプロセスが見えるアイディアスケッチ、発想・構想の手がかり「表現のヒント」、表現の参考にする作品と理解を深める「作者の言葉」など生徒一人一人の表現の幅が広がるような工夫がされている。 ○中学生が身の回りで見つけて撮影した「私の見つけた美」では、同世代の中学生がどのように感じ、どのように表現したかが分かり、発想・構想が深められる工夫がされている。	
資 料	○各冊子の巻末に設定された資料では、題材に対応した技法資料が掲載されるとともに、QRコードで読み込んだ動画によって技法の確認ができるなど、生徒の主体的な活動を支える工夫がされている。 ○原寸大の図版で大きさを体感できたり、屏風のしかけを実際に折って立ててみたり、生徒が知識を実感的に理解できるよう工夫されている。	
表記・表現	○「学びの目標」として題材ごとに「知識〔共通事項〕や技能に関する目標」「発想・構想、鑑賞に関する目標」「主体的に表現や鑑賞学習に取り組む目標」が共通したアイコンで分かりやすく表記されている。 ○題材タイトル下に題材内容が短い文で、導入のための発問が設けられており、より深い学びにつながるよう工夫されている。	
総 括	○題材の冒頭に鑑賞作品を掲載することで表現との関連が図られ、白を基調とした紙面構成に統一感があり、各題材の学習の流れが理解できるように工夫されている。 ○動画サイトが充実しており、多くの作品が掲載されており、作品を作る参考にしやすい。	

【保健体育科 調査資料 1－1】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい保健体育	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○1時間の授業を、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の流れで進めることで、課題解決に取り組みながら知識・技能を身に付けられるように、見開き1ページに整理されている。 ○「巻末スキルブック」にある「Dマークコンテンツ」を活用することで、生徒が何度でも実技映像を見ることができ、知識や技能の定着に役立つ。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○4つのステップにおいて思考を促す発問が設けられ、学習課題を解決していく過程で、思考力・判断力・表現力等を育成できるよう工夫されている。 ○「広げる」では、授業で学んだことを自分自身の身体や生活に置き換えて考えたり振り返ったりすることができるような発問になっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○資料としての写真やデータの活用場面が明確に示されており、生徒が資料を効果的に活用しながら学習を進められるように工夫されている。 ○他教科や他の単元との関連がわかりやすく記載されている。生徒の興味関心を深め、教科等横断的に学ぶヒントとなるよう工夫されている。 ＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞ ○各章に「この章で学習すること」が記されており、その下に「小学校で学習したこと」「高校で学習すること」が記載されているので、生涯にわたる学びについて考えることができるよう工夫されている。 ○各章末の「学習のまとめ」には、「キーワード」「章末問題」「日常生活に生かそう」「SDG sについて考えよう」などのワークシートのコンテンツがあり、学んだことを自分たちの生活や将来に生かしたいことを記入できるような工夫がされている。	
資 料	○「教科書の使い方」「保健体育の学習方法」「巻末スキルブック」が示され、学習が効果的に進められるよう工夫されている。 ○「Dマークコンテンツ」では、インターネットを活用した学習が進められるよう工夫されている。	
表記・表現	○本文にUDフォントが使用されていて読みやすくなっている。 ○2つのキャラクターによる学習のヒントやわかりやすいマークの活用により、より学習や理解を深めることができるようになっている。	
総 括	○見通しを持って学習に取り組める構成になっている。 ○各章の扉に記載されている、学習の課題や小・中・高等学校の学習内容の系統性、さらに「保健体育の職業」では、生徒の興味関心を高めたり、学んだことを将来に活かすことを考えたりできるよう工夫されている。 ○今後の生活でも活用できる「巻末スキルブック」の内容が工夫されている。	

【保健体育科 調査資料１－２】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名	中学校保健体育	4
項目		大日本
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「学習のねらい」「つかもう」「課題を解決しよう」「活用して深めよう」という１時間の学習の流れ、さらには章末での「学びを活かそう」「学習のまとめ」という各章の流れの構成により知識や技能の習得がしやすいように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」など様々な学習活動により課題解決に取り組み、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫されている。 ○章末の「学びを活かそう」では、学習したことを理解するための課題が設定し、話し合ったり書いたりすることで、深い学びができるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「つかもう」では、これまでの生活や経験を振り返るような問いにおいて、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるよう工夫されている。 ○ウェブサイト内の動画や資料を活用して主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞ ○口絵１において、３年間を通して学ぶこと、さらにはその学びが将来につながっていくこと、生涯にわたり健康に生活していくことの大切さを感じることができるよう工夫されている。 ○トピックスやミニ知識を読んで、生徒の興味関心を高め、より深い学びと理解をすることで、生涯にわたって健康を保持増進したり豊かなスポーツライフを実現したりできるよう工夫されている。	
資 料	○多くの写真や口絵、「教科書の使い方」「１時間の学習の主な流れ」が示され、見通しを持って学習が進められるよう工夫している。 ○「学びを活かそう」では、自分の意見や考えを書き込めるようになっており、自分の言葉で学んだことを表現できるよう工夫されている。	
表記・表現	○本文にUDフォントが使用されていて読みやすくなっている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。 ○１０個のマークを用いて、学習を深めたり、他教科や他のページと関連づけたりできるように工夫されている。	
総 括	○見開きで本文と資料が左右に分かれていて、参照性を高めるつくりとなっている。 ○各章の学習の課題、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○「学習のまとめ」に記載された〈重要な言葉〉で知識の習得し、〈まとめの問題〉で定着させる流れができている。	

【保健体育科 調査資料1－3】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	最新 中学校保健体育	50 大修館
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開き1ページが1単位時間となっており、「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」の3段階で学習を進め、知識の定着が図れるよう工夫されている。 ○イラストや図表に加え、実習ページが多く掲載されており、視覚的にも知識と技能の習得に役立つよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「キーワード」や資料、ふきだしのヒントを活用して課題につながる気づきや思考を促す学習過程を通じて、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。 ○「学習のまとめ」「章のまとめ」では、様々な表現活動を通して学習したことをもとに考えを伝えたり、生活に生かしたりできるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「保健体育の学び方」や「デジタル教材の使い方」が掲載されていることで、生徒がより効果的に教科書を使って学習に取り組めるよう工夫されている。 ○資料を読み取るためのポイントがふきだしで表示されており、資料の見方や活用に役立つよう工夫されている。 ＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞ ○「コラム」や「事例」、章末の「特集資料」において今日的な課題を取り上げ、生涯にわたって健康であり続けるための実践力を身につけられるよう工夫されている。 ○口絵や章とびらの写真や説明文などから共生社会や生涯スポーツ、多様性の社会におけるスポーツの在り方や健康増進について考えられるよう工夫されている。	
資 料	○「章のまとめ」の問題が観点別にまとめてあり、基礎・基本の習得状況や振り返りができるように工夫されている。 ○デジタル教材を活用して、インターネットで学習が進められるよう工夫されている。 ○「教科書の使い方」、「特集資料」、「コラム」など様々な今日的課題に対応した豊富な資料が使われている。	
表記・表現	○本文にUDフォントが使用されていて読みやすくなっている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。 ○8個のマークを用いて、学習を深めたり、他教科や他のページと関連づけたりできるように工夫されている。	
総 括	○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○資料や単語の説明文や注釈などのレイアウトが見やすく構成されている。 ○「保健の窓」「体育の窓」を掲載し、保健と体育を関連させて考えられるよう工夫されている。	

【保健体育科 調査資料 1－4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新・中学保健体育	2 2 4 学 研
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開き 1 ページで「課題の発見」「学習の課題」「課題の解決」「学びの活用」が構成され、「学習の課題」については【わかる】【考える】の 2 つに分けて記載しており、学習すべき内容が明確になるよう工夫されている。 ○身につけるべき技能には「技能」のマークがあり、イラストや写真・動画を活用して、学習を深められるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○学習した知識をもとに、課題について考えたり、話し合ったり、調べたりする「エクササイズ」が掲載され、課題を解決しながら思考力・判断力・表現力等を育成できるよう工夫されている。 ○「学びの活用」では、身につけた知識や技能を活用して、まとめたり伝えたりすることで、思考力・判断力・表現力等を育成できるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○学習過程やまとめの際に教え合い学び合う課題には「協働」のマークがあり、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の基礎を養うことができるよう工夫されている。 ○1 時間の取り組みの度合いを記録するための「とりくもーター」に自己評価を記入することができ、自己の学習を振り返り、次につなげる力を育成できるよう工夫されている。 ＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞ ○「学びの活用」には、日常生活の課題に対応する実践力が身につくように「見方・考え方」を記載したり、「JOB マーク」で関係のある職業を提示したりして、実生活に結びつけられるよう工夫されている。 ○「情報サブリ」「探究」「発展」等の内容が充実しており、生涯にわたって健康の保持増進に関心を持ち続けられる、豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育成できるよう工夫されている。 ○「章のまとめ」の最後に「生活への活用」の記入欄があり、学んだことを実生活に活かせるよう工夫されている。	
資 料	○章末の「探究しようよ！」という補足資料やキーワードや評価資料がある「章のまとめ」において、学習内容の習得状況の確認や振り返りができるよう工夫されている。 ○デジタル教材を活用して、インターネット学習が進められるよう工夫されている。 ○「教科書の使い方」、「さまざまな学習方法」について、イラスト付きでわかりやすく示されている。	
表記・表現	○本文に UD フォントが使用されていて読みやすくなっている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクが示されている。 ○1 1 個のマークを用いて、学習を深めたり、他教科や他のページと関連づけたりできるように工夫されている。	
総 括	○各章ごとに学習内容と課題、学習の進め方が明記してある。また、小・中・高等学校の学習内容の系統性も明記されている。 ○章末の「探究しようよ！」では、具体的な課題提示がされており、生徒が自分の興味関心に応じて課題に取り組めるよう工夫されている。	

【技術・家庭科（技術分野）調査資料１－１】第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○基礎的・基本的な技能とともに、つまずきやすい内容や安全に実習を行うポイントなどが「TECH Lab」としてまとめられている。 ○技術の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図などが掲載されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各内容の問題解決例では、統一された問題解決の流れが示され、問題解決への見通しを持って取り組めるように工夫されている。 ○「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れが統一されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○技術分野のガイダンスに「技術のめがね」「最適化の窓」が設けられ、生徒が主体的に身のまわりの技術などを見つめ、技術の工夫や技術による最適化について考える活動ができるように工夫されている。 ○身近な技術や製品などの工夫について興味を持って読み取ることができる「技術の工夫」が脚注に示されている。 ＜よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫しようとする実践的な態度を養うための工夫＞ ○「SDG s と Technology」では、持続可能な開発目標について技術が果たしている重要な役割が紹介され、持続可能な社会の構築に寄与する態度が養えるように配慮されている。	
資 料	○豊富なQRコンテンツがあり、必要なときに、自由に選択・活用できる。 ○本文・イラスト・写真・図表等の内容が充実している。	
表記・表現	○本文、見出し、ふきだしなど、全ての書体に、ユニバーサルデザインフォント（UD 書体）が使われている。 ○全てのページに対して、幅広い色覚特性に適応できるような配色とデザインとなっている。	
総 括	○豊富な資料や問題解決例、他教科との関連など、指導計画や実態に合わせて学習を深めたり、広げたりすることができる教科書となっている。主体的・対話的で深い学びが実現できるような構成となっており、豊富なQRコンテンツなどを活用することや、問題解決の流れが統一されているため、一連の流れで指導に活かすことができるよう工夫されている。	

【技術・家庭科（技術分野）調査資料１－２】第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新 技術・家庭科 技術分野 明日を創造する	6 教 区
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「見つける・学ぶ・ふり返る」が基本配列となっており、「見つける」で学習を喚起、「学ぶ」で自主的に学習、「ふり返る」で学習理解の確認ができる。 ○２章の「プチ問題解決にチャレンジ！」の製作題材は基礎技能が学べる題材となっている。教科書と別冊「スキルアシスト」により、加工法など技能を身につけることができるようになっている。また、作業工程や時間の設定の参考にでき、見通しをもった設計、計画ができるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○技術による問題解決の流れが説明されており、生徒が自らの問題解決に取り組むことができるよう工夫されている。 ○設計・計画に必要な要素を多く掲載し、生徒自ら問題解決を図れるよう工夫されている。また、生徒自身の設計や計画を記入できる「設計・計画シート」「計画・育成シート」が巻末に切り取り式シートで用意されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各編に「やってみよう」という欄が示されており、自らの学びやグループでの学びがしやすい問いが設けられている。 ○３章および４章には将来にわたって現在の社会の機能を継続していくことの資料を掲載し、社会の問題を自らの問題として主体的に取り組めるよう工夫されている。 ＜よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫しようとする実践的な態度を養うための工夫＞ ○各編の最終章にある「社会の発展と技術」では、社会における技術のプラス面とマイナス面の資料を掲載し、自ら考え判断できる内容となるように工夫している。 ○巻末の「未来の社会を創造しよう！」では、３年間で学んだことを振り返り、これからの社会で、どのようにいかすかを考えられるよう工夫されている。	
資 料	○別冊「スキルアシスト」では、各編の製作に必要な基礎技能が掲載されている。 ○作業工程全体の動画や各技能の動画などの内容にリンクするＱＲコードが多数収録されている。 ○「スゴ技」「技ビト」では、日本の技術・文化伝統など製品に込められた技術や職人、生産者の思いを紹介している。	
表記・表現	○文字はユニバーサルフォントを使用している。また、重要語句は青太文字にして視認性を上げるよう配慮されている。 ○本文中やコラムなどに、現代的な諸問題に対応したマークや持続可能な開発目標（SDGs）の目標に対応したマークをつけている。	
総 括	○各内容が「技術を見つめよう」「技術をいかそう」「未来をつくろう」で構成されており、題材においても、「見つける」「学ぶ」「振り返る」の配列になっている。 ○各題材の「見つける」などでは、疑問や関心を対話式のイラストで表現されており、問題解決的な学習ができるよう工夫されている。	

【技術・家庭科（技術分野）調査資料１－３】第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	9 開隆堂
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各内容で共通して、社会における技術に気づき、基礎的・基本的な知識および技術の習得を通して、社会や環境と技術とのかかわりについて理解を深められるように工夫されている。 ○ガイダンスのページで技術の見方・考え方を取り上げ、各内容でそれを深めるようになっている。 ○各題材とも、実験などを通して科学的な視点を育てる配慮が十分にされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各学習項目では、学習課題を設けて生徒に問題意識をもたせ、CHECK でふり返ることで、自ら解決しようとする能力を養うように組織されている。 ○実習を行う際には、科学的な原理・法則などを踏まえて計画・設計し、身体的な技能などを用いて具体的なものが創造できるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各内容の最後では、社会や環境と技術とのかかわりについての理解に基づき、技術の在り方や活用のしかたを客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとする態度が育めるようになっている。 ＜よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫しようとする実践的な態度を養うための工夫＞ ○各内容の最後では、社会や環境と技術とのかかわりについての理解に基づき、技術の在り方や活用のしかたを客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとする態度が育めるようになっている。	
資 料	○各内容の適切な箇所にQRマークを記載することによって、個別最適な学びが実現できるように配慮されている。 ○実験や学習課題などで、協力し、結果を話し合って検証するような協働的な活動ができるように配慮されている。 ○身近なキャラクターを掲載し、生徒に興味関心を持たせ技術の発展について理解しやすいよう工夫されている。	
表記・表現	○可読性の高いユニバーサルデザインフォントを使用していて読みやすく、内容に応じて適切な大きさが使われており、生徒の発達段階を配慮したものとなっている。 ○文章は、配慮を要する生徒にとっても理解しやすいよう、単語が途中で改行されないように工夫されており、認識しやすいものとなっている。	
総 括	○各内容は「基本→問題解決→社会へ」という基本構成になっている。また、各ページは「学習の目標、学習課題→学習内容（本文）→CHECK（ふり返り）」という流れで構成されている。そのため、どの内容、どのページでも同じように指導できるようになっている。	

【技術・家庭科（家庭分野）調査資料１－１】第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	2 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○必ず身に付けさせたい基礎的な技能を「いつも確かめよう」にまとめたり、QR コンテンツを充実させたりし、技能を確実に習得できるようにしている。 ○各編の最後には、「学習のまとめ」、「大切な用語の確認」が掲載され、学習内容が確実に身に付くように構成されており、基礎的な知識・技能が習得できるような工夫がある。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○Warm up では、家庭分野の問題解決的な流れを具体例と共に示し、その後の学習に生かせるような工夫がされている。 ○各小題材に、小中の接続、他教科との関わりが記載されていて、系統性や教科横断的な意識をもって学習を進めることができる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○小題材の始めには、「レッツスタート」の欄があり、課題を自分事として捉えたり、実生活と結び付けて考えたりすることができるような工夫がされている。 ○各節の初めには、「目標」「初めの活動」「学習課題」を掲載し、見通しと課題意識をもって進められるようにし、これまでの学習を基によりよい生活を創造しようとする態度を養うための工夫がされている。 ＜実践的・体験的な活動の工夫＞ ○調理の実習例が豊富に掲載され、授業時数に応じて題材を選べるように配慮されている。 ○布を用いた製作の実習例は、平易な小物から衣服まで、また資源や環境に配慮した多彩な工夫例が豊富に掲載されている。	
資 料	○小学校の教科書などを掲載して関連を図ったり、QR コードで見られるようにしたりして、振り返りが容易にできるように工夫されている。 ○実物大の写真、豊富なコンテンツ、思考ツール等、学習効果を高めるための工夫がされている。	
表記・表現	○見方・考え方の視点の表示が、章の最初に記載されている。 ○実習例は写真や図を使用し、安全・衛生の注意事項のマークや食物アレルギー物質についても記号の表記がある。 ○ユニバーサルデザインフォントや柔らかな色彩に、配慮されている。	
総 括	○ガイダンスの後には、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）、A（家族・家庭生活）、の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。	

【技術・家庭科（家庭分野）調査資料１－２】第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する	6 教 図
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○章末のまとめには、「学習の振り返り」があり、その都度振り返りができる構成になっており、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られるように工夫されている。 ○小題材の初めに、「キーワード」が提示され、習得すべき語句等を意識した授業が展開されるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○小題材は見開きで構成され、「学ぶ」「ふり返る」が繰り返されていて、見通しをもって問題解決的な学習ができるように工夫されている。 ○実習題材では、生徒が親しみやすいレシピが多数掲載されており、自分の食生活に生かすことができるような工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「見つめてみよう」の欄では、自分事として捉えられるような事例が掲載され、実生活と結び付けて考えることができる工夫があり、主体的に学習を進められるようになっている。 ○「学びを生かそう」の記録レポートは、自分の生活課題の改善の流れに沿ってまとめて発表することができ、生徒の表現力につながるような工夫がある。 ＜実践的・体験的な活動の工夫＞ ○様々な実習例や多彩な資料、豊富な実践例が掲載されている。 ○A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の領域を相互に関連付けさせて学習できるようになっている。	
資 料	○実物大の写真や豊富なデジタルコンテンツ、コンピュータを用いた計算ツール、シール等の付録もあり、学習効果を高めるための工夫がされている。 ○調理の実習例では、食物アレルギーに対応した代替レシピの掲載があり、生徒の多様性にも配慮されている。	
表記・表現	○食物アレルギー物質を含む食材には下線が記され、代替食材も記載されている。 ○QRコードの横にデジタルコンテンツの内容が記されており、読み取る前に掲載内容が分かるようになっている。 ○配色やレイアウトが見やすく、ユニバーサルデザインにも配慮されている。	
総 括	○ガイダンスの後には、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の順の内容の配列になっており、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。	

【技術・家庭科（家庭分野）調査資料１－３】第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ	9 開隆堂
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○内容のまとまりごとに「学習のまとめ」があり、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れるような工夫がされている。 ○技能の習得においては、写真が詳細で、細部は拡大写真やイラストが添えられており、生徒が確認しながら作業を進められるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○イラストや写真などから視覚的に学ぶことができるようにつくられており、見通しをもって学習ができるように工夫されている。 ○タイトルから何を学ぶのかが分かり、科学的根拠に基づいて視覚的に理解できるようにまとめられている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○題材の初めは題材に関連した写真のページで始まり、学習の見通しをもつことができ、各章末には「学習のまとめ」を設け、「やってみたい、もっと知りたい、深く考えてみたい」と感じさせるような工夫がある。 ○考える場面を多く掲載することで、生活の中から自身の課題を見つけられるようになっており、主体的に取り組めるような工夫がされている。 ＜実践的・体験的な活動の工夫＞ ○個に応じた深められる内容や豊富な実習例が掲載されており、個々の学びを助けるものになっている。 ○豊富な資料を活かして学習の見通しをもつことで、発展的な学習につながるような工夫がされている。	
資 料	○各ページ下には豆知識が掲載され、実習や製作は見開きページで左から右へ横に流れる記述になっており、レイアウトが工夫されている。 ○実物大写真や豊富なデジタルコンテンツが掲載されており、学習効果を高める工夫がある。	
表記・表現	○見開きごとに「学習の目標」が明確に掲載されている。 ○写真や図を用いて実習例を示し、注意事項のマークや食物アレルギー物質に色付けの表記をする等の工夫がされている。 ○文章や書体、文字の大きさ、カラーバリアフリー等に配慮されている。	
総 括	○ガイダンスの後は、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の順の内容の配列になっており、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。	

【外国語科（英語） 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名	NEW HORIZON English Course	2 東 書
項目		
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「扉」「Part1,2」「Read and Think1,2」「Unit Activity」で各単元を構成している。各単元の4つの Activity から単元末の Unit Activity につなげている。年間3回の Stage Activity で4技能を統合した活動を行う。 ○Read and Think では要点→詳細→自己表現と読み取る視点を3段階に分け、読解練習に対応している。単元終了後には実際の場面による Real Life English が設定されており、4技能の定着を図る。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○単元初めの Preview で単元全体の場面設定を捉え、Part で概要をつかみ、Read and Think の段階に分けた読み取りからの表現活動、最後の Unit Activity で発信活動を行う。年間3回の Stage Activity、Real Life English では目的・場面・状況を意識して活動できるようになっており、思考力、判断力、表現力を駆使して技能統合された活動を行うことができる。 ○帯活動用 Small Talk には表現の参考となる Expression List があり、対話活動の即興性を高めることができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○世界遺産やポップカルチャーなどが題材となっているので興味をもちやすい。 ○各単元の4つの Activity で積み上げた表現を生かして単元末活動である Unit Activity に取り組めるようになっている。個々の活動だけでなく意見交流をし、得た知識や技能を活用して自分の考えを再構築する機会を設けている。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○各単元の Activity で積み上げた表現を生かし、単元末の Unit Activity で目的・場面・状況を踏まえた発信活動を行う。 ○巻末の「CAN-DO リスト」には領域別の目標が示され、学期ごとに到達すべき目標が明確に理解できるようになっている。 ○単元末の「Grammar for Communication」では、新出文法の振り返りができ、「Let's Try!」表現を通して定着を図ることができる。 ○新出語句を扱う「New Words」では重要用語（発信語彙）を太字で表記している。	
資 料	○巻頭には、「もっと英語で伝え合おう」や「学習の見通しを立てよう」があり、何を学習するのか見通しが立てられるようになっている。また、「学び方コーナー」があり、生徒の自学自習の助けとなる。巻末の「Word Room」では、言語活動で活用できる補充単語・表現が掲載されている。 ○単元ごとにQRコードが掲載されている。端末で読み取り、単語や本文の音声、文法の解説動画を再生することができる。	
表記・表現	○1年生はほぼ全編で手書きに近い独自のフォントを使用。2年生以降は活字体を使用している。1年生ではアクセントは各単語に青色で付記、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生ではアクセント、発音記号を青色で併記している。	
総 括	○英語を学ぶ楽しさや達成感を味わいながら、単元末活動に向かって言語活動を積み上げて英語力を身に付けられるよう、学習を進めていく工夫がされている。 ○学習者用デジタル教科書では、単語の暗記や本文の音読練習など個人の能力に応じた学習がしやすくなっている。	

【外国語科（英語） 調査資料 1－2】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名	SUNSHINE English Course	9 開隆堂
項目		
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○全体は「Program」「Power Up」「Our Project」で構成されている。各単元となる「Program」は「とびら」「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review & Retell」「Action」で構成されている。 ○「Scenes」のページで「Program」すべての基本本文の導入（2コマ漫画）と知識・技能を習得する練習がある。「Part」の本文で基本本文の提示と内容読み取りのQ&Aがある。最後のページの「Action」で本文の題材に関連した自己表現活動を行う。 ○「Power-Up」では場面特有の表現を取り上げ、扱う場面によって、技能統合型の活動を配置している。「Step」では「Our Project」で役立つ技能が事前に学習できる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「Tuning in」で視聴覚資料を活用して題材の導入を行い、「Part」では多種多様な題材の英文を読むことで、思考力や判断力の育成を図っている。また、「Review & Retell」で本文の内容を自分のことばで再話することで理解を深め、単元末の「Action」では、題材に関連したテーマで行う自己表現活動が設けられており、思考力・判断力・表現力を育成することができる。 ○「Our Project」では4技能5領域を統合的に扱い、自己表現活動を行うよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「Our Project」は協働学習による活動で、学び合い、高め合う内容や題材となっている。 ○各学年3カ所に「Coffee Break」というページがあり、本文題材に関連した情報を取り上げ、異文化理解につながるようにしている。 ○とびらで学習の見通しを立てたり、各コーナーでの自己評価を重ねたりすることを通して、自分の学習を調整しやすい構成になっている。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○目的、場面、状況を意識して言語活動ができるようにしている。「Review & Retell」では本文の内容を振り返りながら表現活動を行い、「Action」「Our Project」などまとめの活動ができるようになっている。 ○言語活動に必要な語彙が「Word Box」「Expression Box」で示されている。「New Words」で発信語彙が太字で示されている。	
資 料	○巻頭に3年間を通した目標と1年間の学習の流れが示され、見通しを持って学習できるようになっている。1年巻末にはクイックQ & Aのページがあり、ペアでゲーム感覚で既習文の復習ができる。 ○音声、動画、単語学習等のQRコンテンツがあり、QRコードから簡単にアクセスでき、自学自習を可能にしている。	
表記・表現	○1年生前半では小学校と同じ手書き書体、後半は手書きに近い独自のフォントを使用している。2, 3年生では一般的な書体を使用している。各学年共に、各単語にアクセントを付記し、発音記号は巻末に掲載している。	
総 括	○「Our Project」を軸にして、知識・技能を習得し、自己表現することを意図している。学びに向かう力と豊かな人間性を育て、国際社会で活躍しようという意識を高めようとする内容である。 ○デジタル教科書では特別支援機能、ふせん・リンク機能があり、QRコンテンツが簡単に利用できる。	

【外国語科（英語） 調査資料１－３】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	NEW CROWN English Series	15 三省堂
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「とびら」「Part」「Side Story」「Small Talk Plus」「Goal Activity」で各単元を構成している。「Goal Activity」に向けて学習を積み重ね、習得した技能を活用して年３回の「Project」で総合的な英語発信力が身に付くようになっている。 ○「Take Action」には「Talk」「Listen」「Read」の３パートがあり、実際の場面に応じた即興のやり取りや、対話活動、必要な情報をつかむ活動、情報の概要や要点を捉える活動を組み込んでいる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○単元の「Part」では「Scene」で情報を整理、「Goal Activity」で目的や場面、状況に応じた自己表現活動につながる構成である。生徒の実生活で身近に感じられる題材を扱っており、思考力、判断力、表現力を高めることができる。 ○「Project」が各単元での学びを統合する活動になっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「Take Action!」や「Project」では相手とのやり取りを想定した活動や目的・場面・状況を意識して４技能がバランス良く身につく表現活動ができる構成になっている。異文化理解や伝統文化等の題材を通して、身近にある様々な課題に対応できるようになっている。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○資料の「What Can I Do?」には領域ごとに達成したい目標が示されている。各単元の最初のページにはイラストや写真が目立つように配置されており、表現活動の手助けとなる。 ○各単元に「Listen」「Speak」「Talk」「Write」があることで、バランス良く４技能を高めることができる。それぞれ、新出文法を用いて言語活動を行うことができる。「Goal Activity」では生徒が自ら考え、構成や話し方を工夫して取り組むことができるようになっている。 ○新出語彙を扱う「Words」において、重要語彙（発信語彙）を太字で示している。 ○「Word Bank」や「Tips」に言語活動の助けになる表現が記載されている。	
資 料	○巻頭には教科書のしくみと学び方が示されており、身に付けたい力を意識できるようになっている。巻末には「Tips for Small Talk」や「ロールプレイシート」があり、発信力を高めるように工夫されている。 ○各単元にＱＲコードが掲載され、単語や本文の音声や映像が端末などで再生することができる。	
表記・表現	○１年生全編を通して手書き文字に近い独自のフォント、２年生以降は活字体を使用している。１年生はアクセントを各単語に黒字で付記し、発音記号は巻末に青字掲載してある。２、３年生はアクセント、発音記号が併記されている。	
総 括	○「Project」を軸に多様な学び方を通した考える力の育成に重点を置いている。「Scene」の学習を積み重ねていくごとに情報を整理したり、活用したりする力が高まる。１年生の最初は小学校で体験した内容を通して学びを振り返り、小中接続を意識した内容となっている。また、３年生では語彙数や分量が増え、中高接続を意識した内容となっている。 ○学習者用デジタル教科書では単語の暗記や本文の音読練習など個人の能力に応じた学習がしやすくなっている。	

【外国語科（英語） 調査資料１－４】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	ONE WORLD English Course	17 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○全体は「Lesson」「Tips」「Project」の３部構成である。各単元「Lesson」はそれぞれ、扉、「Part」「Task」「Grammar」で構成されている。「Project」は、これまでに学んだ知識・技能を活用できるような活動を行う。 ○「Lesson」の「Part」の「Tool Kit」で基本文を練習し、「Grammar」で学んだ文法事項を視覚的にわかりやすく説明しており、自然な流れで新出事項が学べる。 ○各学年４～５つの「Activity Plus」があり、既習事項を使った「Q & A」で基礎・表現の定着を図っている。「Tips」では４技能５領域の技能を高めるためのアドバイスを提示し、実際に活動を行うことができる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「Lesson」の「Part」に基本文を練習する「Tool Kit」「Let's Listen」「Think/Read & Try」の活動があり、「Task」では本文の振り返りや自分の考えや思いを表現する。 ○生徒自身の興味・関心や経験等を発信できるように、「Think & Try」「Read & Try」「Task」「Project」等のコーナーに言語活動を配列している。また、各学年の「Useful Expressions」のページでは、日常的な場面でよく使われる表現を扱っている。 ○各学年に３回「Project」があり、ペアやグループで協働しながら、生徒自身の主体的な思考・判断を加えた表現活動を行うことができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○単元末に「Task」と「Grammar」を設置し、学習した内容の確実な定着を促す構成となっている。巻末の「英語学習法」で自主的な学習を行うアドバイスを掲載している。 ○QRコードからアクセスできるWebページ「まなびリンク」があり、音声、「Words」&学習シート、「Let's Use」見本動画、活動用ワークシートが利用できる。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○「Activity Plus」では、ペアでの対話活動を行い、お互いの表現を学び合いながら、「話すこと〔やり取り〕」の力を引き出すようになっている。 ○「Think & Try」では、本文を利用してやりとりの練習ができるようになっている。「Task」では自分の考えなどを発表しクラスメイトと共有する活動が設定されている。 ○言語活動で必要な語彙が「Tool Kit」「Tips」等で取り上げている。「Words & Phrases」で発信語彙が太字で示されている。	
資 料	○巻頭には教科書のしくみと学び方が示されており、身に付けたい力を意識できるようになっている。巻末には「Tips for Small Talk」や「ロールプレイシート」があり、発信力を高めるように工夫されている。 ○各単元にQRコードが掲載され、単語や本文の音声や映像が端末などで再生することができる。	
表記・表現	○１年生全編を通して手書き文字に近い独自のフォント、２年生以降は活字体を使用している。１年生はアクセントを各単語に黒字で付記し、発音記号は巻末に青字掲載してある。２、３年生はアクセント、発音記号が併記されている。	
総 括	○「Project」を軸に多様な学び方を通した考える力の育成に重点を置いている。「Scene」の学習を積み重ねるごとに情報を整理、活用する力が高まる。１年生の最初は小学校で体験した内容を通して学びを振り返り、小中接続を意識した内容となっている。また、３年生では語彙数や分量が増え、中高接続を意識した内容となっている。 ○学習者用デジタル教科書では単語の暗記や本文の音読練習など個人の能力に応じた学習がしやすくなっている。	

【外国語科（英語） 調査資料１－５】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名	Here We Go! ENGLISH COURSE	38 光 村
項目		
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「Unit」と各学年３つの統合的活動「You Can Do It!」がある。各単元「Unit」は扉、「Part」と「Goal」で構成されている。新出事項を繰り返し学習しながら、統合的な活動「You Can Do It!」につながるようになっている。 ○「Daily Life」では実際の英語使用場面が取り上げられ、場面特有の表現を学べる。また、「Let's Talk!」や「Story Retelling」が設定され、自分の言葉で表現する力や、実社会で役立つ即興力を養うことができる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「Unit」の最後の「Goal」のページでは、目的や場面状況に応じた思考・判断・表現ができるような活動の設定がある。 ○登場人物になりきってセリフの続きを考える「You're the Writer!」を設定し、ストーリーをもとに思考力・判断力・表現力を働かせることができる。 ○統合的活動「You Can Do It!」では思考力・判断力・表現力を高めることができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「Unit」の最初のページに領域別の目標が示されており、「Goal」と「You Can Do It!」に振り返りのコーナーを設けて、主体的に学習に取り組めるようになっている。 ○「Idea Hunt」では読んだ本文を自己表現に生かすヒントが示され、「TIP」では活動内容に沿った読み方・聞き方のアドバイスを示している。 ○巻末に「英語の学び方ガイド」があり、家庭での学習の仕方について紹介している。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○各単元で基本文を使った即興的なやり取りを練習する活動があり、「Let's Talk」で即興的なやり取りの力を継続的に高め、「You Can Do It!」ではスピーキング力を高められるようになっている。 ○言語活動において必要な語彙が「Key Phrases」や「Key Words」で示されている。「Words」で発信語彙が太字で示されている。	
資 料	○１年間の学習の見通しが立てられるように、巻頭に教科書の構成・３年間の到達目標が示されている。巻末には、「Let's Talk!」があり、場面に応じて会話する力がつけられるよう工夫されている。 ○付録で「その場でスピーキング」のトピックがテーマごとに提示されている。 ○学びの目的に合わせて活用できるQRコンテンツがあり、家庭学習にも活用できる。	
表記・表現	○１年生前半は独自の手書き体、後半はブロック体とセリフ体を併用。２年生以降のセリフ体につなげている。１年生ではアクセントは各単語に青色で付記、発音記号は巻末に掲載している。２、３年生ではアクセント、発音記号を青色で併記している。	
総 括	○３年間を通して「できるようになること」を系統的に設計し、見通しを持って学習を進められるよう、各学年・各学期・各教材の目標を提示している。 ○「You Can Do It!」を軸として、既習事項を繰り返し活用できる構成になっている。 ○デジタル教科書にはネイティブスピーカーによる音声を収録し、特別支援を必要とする生徒のための機能もある。また、「You Can Do It!」では活動の内容に関連したスピーキングテストに取り組めるようになっている。	

【外国語科（英語） 調査資料 1－6】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	BLUE SKY English Course	6 1 啓林館
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○とびら→Part→Read/Listen & Think→Think & Speak/Write で各単元を構成している。学期末は Project で自己表現する活動ができる。流れの統一から繰り返し学習し、定着を図ることができるようになっている。 ○各単元にある「Target」では本文の内容に沿った新出文法の例文が示されている。「Scene」「Listen」「speak」「write」の 4 つの構造から、4 技能を通して新出文法の形に慣れる仕組みがある。「Let's」では実際の場面が想定されており、実用的な表現が習得できる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○単元の各「Part」で「Unit」の概要を掴み、「Read/Listen & Think」でより深くテーマへの理解を深め「Express Yourself」で自分自身について表現する流れである。「Project」を通じて社会的な話題について関心を持ち、自分の意見や考えをまとめることを通して思考力、判断力、表現力を高めることができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「Express Yourself」を積み重ねることで、他者意識をしてコミュニケーションを取ることが自然と意識できるようになる。環境問題、世界遺産、多様性など題材として挙げられており幅広く、国際理解や異文化理解を深めることができる。 ○各「Part」の「Notes」で補足情報を得て、題材への深い学びに繋げることができる。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○単元ごとに「Unit」のゴールが設定されており、「input」と「output」の 2 つの側面を意識した学習が系統的にできるようになっている。巻末の「Can-Do リスト」に達成目標が示されており、教科書との関連と照らし合わせて学習ができる。 ○「Target のまとめ」の「Let's Talk」では、テーマについて学んだ表現を用いての言語活動が設定されており、新出文法との関連付けがされており、各単元の「Express Yourself」では「Target」で学習したことを目的・場面・状況を意識して表現できるようになっている。 ○「Enjoy Chatting」で言語活動が自然とできるようになっている。新出語彙を扱う「Words」で、特に身に付けたい語彙（発信語彙）を太字で示している。また、「Tool Box」には各言語活動で活用できる表現が掲載されている。	
資 料	○巻頭には教科書の目次が示されており、1 年間の見通しを持てるようになっている。巻末には「Word Box」が掲載されており、言語活動をする際の参考として活用できる。CAN-DO List には教科書の関連項目が記されており、「Unit」ごとに身に付けたい力を明確にできる。 ○「Part」ごとに QR コードが掲載され、単語や本文の音声、アニメーションなどを端末などで手軽に再生ができるようになっている。	
表記・表現	○1 年生は UD フォント、2 年生はブロック体と活字体（Century Schoolbook）、3 年生は活字体を使用している。1 年生は、アクセントは各単語に青色で記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3 年生は、アクセント、発音記号が併記されている。	
総 括	○単元ごとに新出語彙や文法の本文を読んで理解し、表現活動を行った後、「Project」で自己表現を活用する活動へ繋ぐ構成である。1 年生の巻頭の内容から小中接続を円滑に行い、3 年生は将来を意識したテーマ設定により中高接続を自然と意識できる。 ○学習者用デジタル教科書ではアニメーションによって本文の音声を聞くことができ、目的・場面・状況を明確にした内容理解がしやすくなっている。	

【道徳科 調査資料 1－4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート	1 1 6 日 文
内 容	＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○ページの先頭にキーワードとして関連項目を明示しており、道徳的価値を理解しやすい工夫がされている。 ○考えてみよう・自分にプラスワンの2つの発問を中心に構成されており、判断力・心情・実践的意欲を育成しやすいように工夫されている。 ○別冊の道徳ノートは年間を通して使用することができ、自己の成長や心情の変化が分かりやすいように工夫されている。また自分の意見・他者の意見書き込み、整理することで、価値理解までの過程が整理しやすいように工夫されている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫＞ ○いじめ・多様性・SDGs を重点的に掲載し、共生社会や人権教育、相互理解に関わる内容について意識を高められるように工夫されている。 ○いじめは3年間を通して最重要事項として複数配置し、各学年、学期を通して考える機会を多く設定し、一人一人が自分事として捉えられるように工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○小学校との連携や、学年間での連携を意識した教材の取り扱いがあり、生徒の思考が深められるように工夫されている。 ○1年生は「であう」、2年生は「みつめる」、3年生は「ひらく」をテーマに設定し、各学年で系統的・発展的な学びができるように工夫されている。また、1年生はいじめ、3年生はキャリア指導に関する項目が多く扱われるなど、学年に応じた学びができるように工夫されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○生徒の知っている人物や漫画などの取り扱いが多く、理解しやすい身近な題材として考えを深めやすいように工夫がされている。 ○話し合いの仕方や、整理方法を示した教材を掲載し、対話的・協働的な学びが実現できるように工夫されている。「学びを深めよう」のページでは、問題解決型・体験的な学習を通して考えを深め、納得解を得られるように工夫されている。	
資 料	○漫画を用いた教材や多様なイラスト、写真、グラフを活用した教材など、多様な教材が掲載されている。 ○すべての教材に二次元コードがあり、朗読音声や心情メーター、思考ツールを活用しやすい。また、補足資料もウェブサイトで見やすくなっている。	
表記・表現	○UDフォントを採用し、全ての人が使いやすいように合理的配慮がされている。教材の挿絵にも人権的配慮や多様性への配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名の他、脚注で補足説明がされている。 ○巻末で学習指導要領の4つの視点（学びのキーワード）や、他教科・領域との関連が示されている。目次と巻末で現代的な課題とのかかわりが示されている。	
総 括	○別冊ノートを活用し、自分の意見・話し合いの過程や内容を記入すること、さらにそれらを年間の記録として残すことで、自らの成長や協働的な学びを積み重ねられるように工夫されている。 ○二次元コードを用いた思考ツールが複数設けられている。	

書名 項目	新版 中学生の道徳 明日への扉	2 2 4 学 研
内 容	＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○巻頭に、「考えを深める 4 つのステップ」を示している。道徳的価値を自分自身との関わりで理解しやすいように工夫されている。 ○巻頭の「クローズアップ」というページを設定し、各内容項目に関連する資料やコラムを掲載することで、教材以外の様々な視点から内容項目を考えていけるように工夫されている。 ○教材の冒頭には内容に関する問いかけ、最後には「考えよう」が掲載されている。テーマを踏まえたうえで学習を始めることができるように工夫されている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫＞ ○「いのちの教育」、「主体性」、「多様性」をポイントに挙げ、1 年で 8 項目のテーマとして取り扱い、様々な視点で考えを深めていけるように工夫がされている。 ○デジタル、情報モラルに関する教材をはじめ、現代的な課題を率先して取り上げて、自分事として考えられるように工夫されている。 ○主体的に取り組む手立てとして、「深めよう」のページを設けており、話し合いの 4 つのステップや、役割演技などを示し、考えを深められるように工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○発達の段階に応じてテーマや視点の配分を変更しており、いじめ、キャリア教育など、生徒の成長を想定し、自ら考え、解決していけるように発問や構成が工夫されている。 ○同じ内容項目や関連する内容項目を扱う教材を継続して取り扱うように掲載が工夫されており、生徒が自分自身と向き合いながら思考を深めたり、変化させたりすることができるように工夫されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○4 つのステップを基本とした構成され、問題解決的な学習を進める手立てを示すことで、生徒が考えを深めやすくなるように工夫されている。 ○各ページの下段には補助発問的な問いかけや補足が記され、より深く考えを持つことができる。また、教材に書き込み欄が設けられ、思考の過程や話し合いのなかで得た他者の意見などを書き込み、思考を深めていけるように工夫されている。	
資 料	○写真やグラフから考える教材など、多様な教材が掲載されている。教材の内容項目に対する問いが、冒頭に掲載され、考えるきっかけを与える工夫がされている。 ○二次元コードから、教材に関する動画・音声・写真、資料の他、ワークシートなどを活用することができる。 ○巻末には切り取って使用できる学びの記録シートが掲載されている。	
表記・表現	○UDフォントを採用し、全ての人を使いやすいように合理的配慮がされている。教材の挿絵にも人権的配慮や多様性への配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名の他、脚注で補足説明がされている。 ○目次・教材冒頭・巻末で学習指導要領の 4 つの視点をマークや色分けで示している。	
総 括	○現代的な課題について考えを深められるよう、系統的に学習内容が掲載されている。 ○巻頭・教材冒頭などに、内容項目を意識させる表記や問いが多く、生徒自身課題について確認・理解しながら学習を進め、議論していくことができるように工夫されている。	

書名 項目	新編 新しい道徳	2 東 書
内 容	＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○内容項目別一覧が各学年の巻頭と巻末に付録されており、道徳的価値を深く理解できるよう工夫されている。 ○全教材に自己を見つめるための発問「見つめよう」が設けられている。学期に1回「自分の学びをふり返ろう」も配置され、道徳で学んだ価値を活かせるよう工夫されている。 ○各学年に「生命の尊さ」に関連させて、防災教育として道徳的判断力を育む教材が、バランスよく配置されている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○各学年ユニット「いじめのない世界へ」を配置している。多面的・多角的にいじめ問題に向き合えるよう工夫されている。 ○「道徳×情報モラル」教材では二次元コードからアニメーション教材を視聴できるよう工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○NHK for school を紙面化した教材が全学年に配置されている。 ○小学校との関連や学年間での連携を意識して取り組めるように工夫されている。 ○ビジュアルから考える教材、漫画を活用した教材、グラフから考える教材などが配置されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○各教材に「つぶやき」を設けてあり、自分の考えや友人の考えをメモできるよう工夫されている。 ○各学年巻末の「心情円」を活用することで円滑な話し合いができるよう工夫されている。	
資 料	○各学年35教材が配置され、巻末に教材一覧表が掲載されている。 ○イメージを広げる絵や写真が適所にあり、他教科関連マークが掲載されている。 ○全ての教材に二次元コードがあり、朗読音声やデジタル心情円、教材の補足資料などを見ることができる。	
表記・表現	○UDフォントを採用し、全ての人が使いやすいように合理的配慮がされている。教材の挿絵にも人権的配慮や多様性への配慮がされている。 ○原則小学校までに習った漢字を使用するよう工夫されている。 ○各学年の巻末に内容項目や学習のテーマ、関連する主なテーマなどを閲覧できる「教材一覧表」が掲載されている。	
総 括	○巻末に設けられている自己評価用紙と心情円で自己を見つめたり、可視化したりできるよう工夫されている。 ○教材と関連したテーマをより深く広く考えられるよう、発達の段階に応じた内容で、日常生活や他教科と関連させて生かせるよう工夫されている。	

書名	中学道徳 とびだそう未来へ	17 教 出
項目		
内 容	＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○各教材には、学習指導要領に示された 4 つの視点に該当するかを色と絵柄で区別したマークで示されている。 ○巻頭のオリエンテーションページでは、多様な考えを交流し合って考えを深めていく学習過程や学習方法をわかりやすく例示できるよう工夫されている。 ○教材末に「学びの道しるべ」が設け、三つの問いを通して段階的に道徳的諸価値の理解を深められるよう工夫されている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめをなくそう」（いじめ等の人権課題）、「つながり合って生きる」（持続可能な社会）、「いのちをかがやかせる」（生命の尊さ）をテーマとし、複数の教材とコラム（ひろば）を組み合わせたユニットを設定し、現代的な課題について重層的に深められるよう工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○各学年の教材は発達段階に即した内容と文章で構成されている。生徒にとって考える時間が十分に取れるよう工夫されている。 ○教材末の「学びの道しるべ」の段階的に深まる問いを掲載している。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○教科書内に適宜記入欄が設けられ、キャラクターによる発言例を示すことや、自分の考えをまとめ、それをもとに言語活動を充実させるよう工夫されている。 ○異なる立場から考えを取り上げた教材や、登場人物が判断を迫られる教材など「問題解決学習に適した教材」が配置されている。	
資 料	○教材の内容や使用している用語・表現は専門家の校閲を受け、人権に十分配慮したものが配置され、巻末に教材一覧表が掲載されている。 ○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解が深められるように工夫されている。 ○全ての教材に二次元コードがあり、教材解説や補足説明、心情メーターなどをウェブサイトで見ることができる。	
表記・表現	○UDフォントを採用し、全ての人がいやすいように合理的配慮がされている。教材や挿絵についての人権的配慮や多様性への配慮がされている。 ○教材は基本的に右ページ始まりで、区切りが分かりやすく、内容が見開きで見渡せる、使いやすい紙面になるよう配慮されている。 ○教材内容の理解を助けるために、生徒のイメージを広げる挿絵や写真、図を適所に配置している。	
総 括	○教材ごとに「てびき」が設定され、学習が深まるよう工夫されている。 ○教科書の学びをさらに深め、充実させる「まなびリンク」が用意され、教科書の二次元コードからアクセスでき、教育の情報化に対応できるよう工夫されている。	

【道徳科 調査資料 1－3】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 光 村
内 容	＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○1時間の学習過程がわかる「てびき」が設けられており、生徒がこの時間で何を学ぶのかを意識して授業に取り組めるように工夫されている。 ○自己を見つめ、クラスメイトとの話し合いをしながら、自分の考えを深めていくことが大切であることがわかる教材を掲載している。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめ」や「情報モラル」について、身近な問題を取り上げ、多面的・多角的に考えたり、話し合えたりできるよう工夫されている。 ○全学年に「防災」をテーマにした教材を掲載しており、過去に起こった自然災害等を通して、防災意識を高められるように工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○ユニットのテーマに沿って、教材を通じて学ぶ内容項目は、緩やかに関わり合いながら学びつながらに配列が設定されている。 ○各学年の最終教材には「1年間の学びを振り返ろう」が配置されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○各学年、年間2か所にある「チャレンジ」では協働的な学びを行うことができ、対話的で深い学びを行うことができるよう工夫されている。 ○ウェルビーイングを実現するための配慮やエージェンシーを育むことができる教材がいくつも配置されている。	
資 料	○「きみがいちばんひかるとき」という副題が付され、よりよい生き方を考える学びの姿が端的に掲載されている。 ○他教科関連マークがあることで、今までの他教科の学習の振り返り、教材の道徳的価値と関連づけることで、教材の理解を深められるよう工夫されている。 ○二次元コードの付いている教材では、朗読音声や教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。	
表記・表現	○UDフォントなど、全ての人が使いやすいように合理的配慮がされ、教材や挿絵にも人権的配慮や多様性への配慮がされている。 ○中学校以上の常用漢字に全てふりがな使用され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○巻末で、現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示され、「教材一覧表」が掲載されている。	
総 括	○全学年補助教材として、小学校道徳の定番教材を掲載している。中1ギャップ解消と深い学びができるよう工夫されている。 ○悩んだり困難にぶつかったりしながらも、自分らしく生きていこうとする人の姿を題材とした教材を多く取り上げており、生徒が自分に自信を持つことを後押しできるよう配慮されている。	

【道徳科 調査資料 1－6】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名	中学生の道徳	232
項目		あか図
内 容	＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○学習活動の展開を意識した発問を設定し、生徒が授業の流れを意識しながら活動できるように工夫されている。「いろいろな見方で考える」を設定し、道徳的価値を自ら考えることができるように工夫されている。 ○巻頭の「始まりの時間」という道徳の学習内容や学習の進め方を掲載し、主体的に考え、協働的に学びを進めていくよう工夫されている。 ○教材末尾に、「自分を見つめて考える・考えを深める」を設定し、1時間の授業を通して得た学びを更に深めることができるように工夫されている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫＞ ○3年間を通して、重点項目として、「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」を取り上げている。特に、いじめ防止や人権尊重に関わる教材を多く取り上げており、学びが深められるように工夫されている。 ○「thinking」というコラムページが全学年に記載され、内容項目に関連する10のテーマを多面的・多角的に学ぶ機会が増やせるように工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることかでき、ねらいを達成する工夫＞ ○『いじめ』を考える、「情報モラル」「キャリア」「共に生きる社会」についてそれぞれユニットとして、まとめて配列することで、系統的に学習を進め、課題についてより思考が深まるように工夫されている。 ○教材冒頭には、主題名のための構成となっており、授業を進めていく中で課題や内容項目に気づき、思考が深まるように構成されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○「はじまりの時間」、という教材が掲載され、基本的な学習の進め方や取り組み方を示すことで、授業全体や話し合いの進め方の基本を示しており、協働的な学びに取り組みやすいように工夫されている。 ○多様な学習活動を、「マイプラス」として取り上げ、役割演技や問題解決的な学習を取り入れて、様々な立場で想像したり考えたりすることができるよう工夫されている。	
資 料	○漫画を用いた教材や多様なイラスト、写真、グラフを活用した教材など、多様な教材が掲載されている。定番教材のほか、羽生結弦選手や大谷翔平選手など、生徒も活躍を知っている人物を扱う教材も掲載されている。 ○二次元コードから、動画や写真、教材に関する資料など、補助的な資料を活用することができる。	
表記・表現	○UDフォントを採用し、全ての人が使いやすいように合理的配慮がされている。教材の挿絵にも人権的配慮や多様性への配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名の他、脚注で補足説明がされている。 ○冒頭と巻末で学習指導要領の4つの視点が示されている。巻末では、現代的な課題との関りや、他教科・領域との関連が示されている。	
総 括	○現代的な課題に向き合えるよう、教材の配置や教材の種類が工夫されて掲載されており、多面的・多角的に考えを深められる工夫がされている。 ○基本的な授業の展開方法が示されているが、問題解決的な学習や役割演技など、体験的な学習もできるように工夫されている。	